

まちづくりの歩み伝える拠点に！

区画整理記念事業「検討ワーキング」進む

戦後の焼け野原から水害に強い港区の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」（一九四八―一九九二）の足跡を記念施設として残そうという計画の骨子（弁天町駅前に交流会館と拠点病院を一体で整備）が昨年度末に決定されたのを受け、交流会館のソフト面を検討する「ワーキング」が区民二十三名と区役所の間で進んでいます。その第二回会合が十一月十六日に開かれ、「まちづくりの歩みを伝える拠点に」という事業趣旨を踏まえた方向へ議論が一步進みました。あと一回の会合や現在実施中（二十七日まで）のパブリックコメント（意見公募）を経て、今年度中に基本構想として決定される予定ですが、この方向へさらに区民議論が発展することが期待されます。

歴史展示を核に、交流などの機能も 二十七日まで意見公募

検討ワーキングの第二回会合は十一月十六日

十八名が出席しました。

（水）夜、港区役所で開催。メンバー二十三名中

◆ 「まちづくりの歩み」を伝える「区民館」

冒頭、田端尚伸・港区長があいさつに立ち、「きょう議論して頂くのは、区役所が机の上で

考えたものではなく、皆さんのこれまでの意見をまとめたもの。さらに煮詰めてほしい」と活発な議論を呼びかけました。

◆「まちづくりの歩み伝える」機能を強調

続いて、過去二回のワーキングなどを踏まえ



→交流会館の基本構想案について議論する検討ワーキングメンバー（写真はAグループ）

十二月十六日夜、港区役所五階で

て区役所がまとめ、事前にメンバーへ郵送されていた交流会館（仮称）の「基本構想案」について、その要点などが区役所担当職員から説明されました。

この中では、交流会館の「機能」として、①まちづくりのあゆみを伝える拠点②出会いと交流が生まれる起点③災害時の防災拠点の三点が、そのための「取り組み」として、①多様な情報発信の拠点②区民の出会い・活動・交流の起点③いきいきとした暮らしを支える拠点④防災・減災の拠点の四点が、そのための「交流会館の運営にかかる基本方針」として、①利用者が使いやすい②交流促進のコーディネート（調整）を行なう③区民が関われる④効率的であるの四点が、それぞれ強調されました。

◆「過去の意見がどう反映されたか」を説明

次いで、過去二回のワーキングなどで出された意見がこの「基本構想案」にどう反映されたのか、区役所担当職員から説明がありました。

この中では、例えば「港区が^{かさあ}高上げ地であることを知る人が少なくなり、交流会館に求められる役割は大きい」↓土地区画整理事業などで港区

のまちづくりの歴史を学ぶことができる記念スペースを図書館の一面に設ける「全世代が横断的に利用できる場所に」↓区民センター・老人福祉センター・子ども子育てプラザ・図書館のそれぞれの機能を相乗的に発揮させることで様々な出会いと交流が生まれるよう工夫する「喫茶・軽食スペースがほしい」↓簡単な飲食ができるカフェ・スペースを設け、多様な世代が自由に利用できるようにする」↓で、学校や職場などとは違う区民の居場所をつくる「地域の活動の発表の場としてのホールがほしい」↓一部ロケットバック式（後方ほど高くなる）四〇〇席程度を基本とした多目的ホールを整備する「色々な規模の勉強会ができるように」↓多様なニーズに対応できる大小様々な規模の部屋を整備する「料理教室ができるスペースがほしい」↓キッチン機能など水回りを備えた部屋を整備する「自家発電設備も備えた災害時の拠点に」↓大規模災害発生時などに避難場所として機能し、備蓄物資も配備できる施設にする「案内人を配備して利用しやすい」↓専任の案内人を確保するのは予算上難しいが、分かりやすい案内・誘導などにつ

いて検討する「障がい者が利用しやすい施設に
→バリアフリーに配慮した施設にする」「使用料
は低く抑えてほしい」→貸室の利用料金は条例な
どで定めることになり、原則として大阪市の類
似施設と同水準になる「区民に関わる運営を
してほしい」→イベント開催などに区民が主体と
なって企画し、実施に関わる仕組みを作る」
→などの反映があったことが説明されました。

◆ 論議は「ハードへのステップ」と位置づけ
次いで、これらの説明を受けて全体に意見が
求められ、メンバーと区役所との間で、主に次
のようになり取りがありました（本紙で順序や
内容を調整・抜粋）。

「交流会館のホール部分について『現区民
センターと同規模（一部ロールバック式四〇〇
席程度）とあるが、その根拠は？」→「現区民
センターと同様の四〇〇席程度が入るだけの面
積を確保したいということ」

「ハード面のロードマップ（工程表）がない
のが不安だ」→「このワーキングは主にソフト
面の論議で、それをステップにして来年度以降
専門「家」とも調整しながら行政においてハード面

へ具体化していきたい」

「防災・減災や備蓄の機能を交流会館に持た
せるというが、役割として過大ではないか」→
「既にある 防災拠点^{（まち）}が損なわれた時などに
代替施設になるということで、日常的に負荷を
負わせるようなことはない。また備蓄などのた
めに交流会館の中心的な機能に支障をきたすよ
うなことにならないようにしたい」

「交流会館の機能として三つが挙げられてい
るが、その中で何が一番のポイントなのか？」
→「土地区画整理事業による戦災復興^{（まち）}など港区
のまちづくりのあゆみを伝える拠点であること
に加えて、出会いと交流の起点や災害時の防災
拠点とし、活力と潤いのある・まちづくりを進
めていきたい」

◆ ニグループで論議 区役所職員が同席

このあと「基本構想案」について「こんな交
流会館にしてほしい」という提案を出し合つ議
論がニグループに分かれて行なわれました。進
行役は第一回、第二回に続いて佛地域計画建築
研究所の社員が担当し、各グループに各一名の
区役所職員が同席しました。約三十分間の議論

←戦後港区の区画整理の歴史を強調し、活発な

議論を呼びかける田端尚伸区長^①と、グルー
プ討議の内容を発表する検討ワーキングメン
バー（写真はCグループの山本芳輝さん）^②



のあと、各グループ代表から次のように議論内
容の発表がありました。

◆ 「民間超えるバリアフリー」とAグループ

Aグループからは「受付に案内役を置くべき」
「港区の歴史などの知識を問う『港区検定』を
創設したらどうか」「交流会館でのイベントをネ
ットで発信したらどうか」「駐輪場の利用は一部
有料にしてはどうか」「バリアフリーはハード面
で民間施設を超えるレベルに」「会議室をフレキ
シブルな（融通の利く）スペースに」「車いす利用
者が良い席で鑑賞できるホールに」「エントラン

ス(入口)には身体障がい者用駐車スペースを確保してはいつイベントでの混雑を考えると上階のホールへの動線(かどせん)（人や物の動き）には検討が必要「災害時に役立つ給水設備やヘリポートがあった方がよい」などの意見があったことが報告されました（港区ゆかりの堀江謙一氏の「コーナー」との意見があとで追加）。

◆「会議室の稼働率アップ」とCグループ

Bグループからは「収益性を高めるには会議室などの稼働率(かどう)を上げる必要があり、そのために①会議にも使える調理室にする②床(ゆか)をリバーシブル(たたまみ)に転換できるようにする③床下収納できるようにする」などの工夫が考えられる「などの意見があったことが報告されました」。

◆「歴史展示スペースは必須」とCグループ

Cグループからは「カフェスペースは必須」「そのスペースで各地域のふれあい喫茶や様々なグループが交替で実施できるように調整役が必要」「区画整理の歴史を展示するスペースは必須。その場合、常に内容を更新できるとなれば良い」「港区ゆかりの画家・柳原良平さんの「コーナー」も設けるべき」「運営に区民が関われる仕組み

を」「会館のキャッチフレーズを『みなとハートポート』にしてはどうか」などの意見があったことが報告されました。

◆「細やかな意見が出て良かった」と区長

以上の報告をうけて区長が「幅広く細やかな意見が出されて良かった。柳原良平さんや西村捨三さんの「コーナー」はぜひ実現したい」と感想を述べると共に「このあとのパブリックコメント(意見公募)にも多くの声が寄せられるよう、皆さんから周囲へ働きかけてほしい」と呼びかけました。

また区役所担当職員からは、①今回までのワーキングを踏まえて再度「基本構想案」をまとめる②十二月にパブリックコメントを実施する③パブリックコメントを踏まえた「基本構想案」を二月の第四回ワーキングで説明・確認する④二月の区政会議に提示・決定する」と今後のスケジュールが示されました。

◆「議論の方向が絞られてきた」と傍聴者

終了後、傍聴者の一人は「活発で具体的な議論に感じました。三回目といよいよ、区画整理記念日についての事業の趣旨に沿って、その

歴史を後世に伝えることを軸に、交流や学びや防災の場も併せて作っていくという、本来あるべき方向へ議論が絞られてきたように感じました」と話していました。



以上の第三回ワーキングに続き、あと二回のワーキングや現在実施中（二月二十七日まで）のパブリックコメント（意見公募）を経て、今年度中に交流会館のソフト面が「基本構想」として確定され、それを土台に設計や建設工事などハード面のスケジュールへ進み、二〇二〇平成三十三年度にオープンするわけですが、今回のワーキングで見られた積極面―①「区画整理の展示スペースは必須」との意見がメンバーから明確に出された②民間会社がまとめ役を担うグループ論議に区役所職員が加わった③交流会館のポイントは「区画整理記念日」であることを区長が三度強調した―を踏まえ、傍聴者の声にもあったように、戦後港区のまちづくりの歴史を後世に伝えることを軸にするという「本来あるべき方向」へ、さらに区民議論が発展するべしと期待されます。

あさやけ

「身はたとひ 武蔵の野辺に 朽ぬとも 留置まし 大和魂」。港戦争展主催者として平和な社会のために、また港生活と健康を守る会「職員として地域弱者のために渾身の活動を続けられていた大槻一成さんが昨年十一月、往秋と共に七十余年の生涯を閉じられました」

本紙「叫んでいとも」欄に国道四三号周辺の環境改善を訴える投稿を試みられたものの、十月初頭「体調が思わしくないので…」と断念の血、電話頂いたのが最後のやり取りとなりました。命尽きる間際まで地域のため尽力されていた姿が改めて偲ばれます。関係者によろしい死因は骨髄癌。脾臓癌などと同じく発見されにくいため、判った時には他の臓器へも広がって手の施しようがなくな、最期は自宅で息を引き取られたそうです。直近の健診では問題なしとされたそうですが、夏の旅行でのかつてない疲れから異常を感じ、診察を受けたりと、末期癌と判明したとか。消化器系では及ばなかつ

ただため食欲は落ちず、最期まで痩せることはなかったと聞いたのがせめてもの救いでした。そんな話に心傾けながら、かつての職場を見守るかのよに微笑み遺影に、暫し掌を合わせました。思えば、若くして福知山から上阪し、労働運動に心血注いだ青・壮年期、酷暑の夏も厳寒の冬も自転車回りを続け、当選議員の誰よりも地域事情に通じていた市議候補時代、平和福祉などの集云での闘志溢れる発言…。まるで地域愛の塊のようだった折々の姿がついに昨日のこのように思い返されます。そんな中で特に脳裏を過るのは、やはり先に挙げた港戦争展の活動です。滾りんばかりの情熱で集めた膨大な資料と懇切丁寧な手作り展示、身振りを交えての燃えるような案内ぶり。昨年七月には三十一回目が区民センターで催され、

一時間で四百人が来場。区民から寄せられた新資料を加えての一段と身近で充実した内容が区外からも注目を集めました。戦後七十年の節目の開催であると同時に、安倍内閣の戦争法案提出に、それに対する翌年前の反対運動を受け、「二度と戦争を許すまい」との思いがいれま

で以上に押し出されていたのが印象的でした。疎開「空襲」抵抗「復興」等々、戦争と平和のほぼ全側面をカバーした詳細な展示。中でも「原爆」「ナニは、人類史上、最悪の残虐行為を写真や詩で生み出すと共に、被爆した港区民の被爆地点と被爆時年齢を記載した市街図や、もし広島級原爆が港区に落とされたら」と仮定した被害想像図も手描きで作成。核が港区民自身の問題であることを感じてほしいとの気迫が痛いほどに伝わる入魂の企画でした。大槻さんはその要として、病魔に蝕まれながらも準備に運営に大車輪の奮闘をされたのです。唯生きるのではなく善く生きるとは古代ギリシャの哲人ソクラテスの箴言。長寿社会には早過ぎる死ですが、その光跡が常人の幾倍もの輝きを放っていることは疑いありません。冒頭の辞世を詠んだ幕末の思想家・吉田松陰が日本の真の維新に殉じた如く、旧年には他にもよい良い港区のためにと身をこの地に捧げた方々が幽明界を異にされました。地域紙としてそれらの遺志に報いん微表に事わ、併せての冥福を心より祈るものとす。

直下型地震に対応

田中地活協が防災訓練積み重ね



→「直下型地震に対応しよう」と重ねられた田中地活協の防災訓練。十一月二十九日朝、田中（写真は体験学習のあとで集合した参加者）

自助・共助の質を高め、直下型地震に対応しよう。阪神・淡路大震災や東日本大震災の発生以来、各地域で防災訓練が繰り返されていますが、このうち田中小学校区（田中・夕風）では十一月二十九日（日）朝、田中地域活動協議会（田中地活協）主催の防災訓練が行われました。一昨年から重点を変えながら継続され、五回目の今回は避難所開設が重点。港区役所、港消防署、大阪市危機管理室、港区まちづくりセンタ支部、田中小学校が協力。

◆各町会で安全確認、避難所へ

訓練は一部に分かれ、最初の「町会別避難訓練」は「午前九時に直下型地震（阪神・淡路大震災と同じ）が発生した」との想定で開始。①各家庭で自分や家族の安全を確認する②無事を示すタオルなどを玄関ドアなどに結んだ上で集合場所に集まる③各班長はタオルなどを目印に安全確認して回り、集合場所待機する町会長や防災リーダーに報告する④集約を済ませた町会長と防災リーダーの引率で避難所へ移動する。⑤避難所へ移動する

（この中では高齢者など避難が困難な人の車い

→安全確認のあと避難所へ向かう田中三丁目の人たち（上）、田中小講堂での防災学習（下）



すを押してあげるなどの支援が見られました。

◆スライドで防災を学ぶ

このあと全十四町会は田中小講堂に集まり、防災研修を受けました。この中では大阪市危機管理室のコーディネーターがスライドを使い、①地震の特徴（直下型は短く激しく揺れて津波はないが海溝型はゆっくり大きく揺れて津波がある）②港区や田中地域の特徴（地上げはされが津波で二メートルほど浸水する）③自助・共助の大切さ（阪神大震災では救出の九割が自助・共助）などを説明。「自助・共助・公助が効果的に実施されるには食料の備蓄や家具の固定や危険箇所の確認など事前の備えが大切」「通訳・

大工など避難所で自分にできることを今から登録しておきましょう」と呼びかけました。

参加者の中にはこうした呼びかけに心え①

医療・介護（医療・看護・介護・鍼灸・臨床心理士・マッサージなど）②ことば（英語・中国語・韓国語・手話・点字など）③専門技能（法律・ヘアカット・簿記・大工・イラスト・ギター・無線通信など）④生活支援（力仕事・裁縫・洗濯・トイレ掃除・ベビーシッター・子供の世話・トラックの運転など）の四分野に色分けされた「できますゼッケン」のいずれかを既に着けている人がかなり見られました。

◆「消火器」は逃げ場を確保して



→「逃げ道の確保を」と強調された消火器体験⑤
と「音声に従って」と助言されたAED講習⑥

このあと会場を校庭に移し、災害時に役立つ三種類の体験訓練が、三グループに分かれて行なわれました。

このうち、出火時に役立つ「消火器操作」の訓練では、消防署員が、①まず消火器を火の近くへ持って行く②ピンを抜く③ホースを火に向ける④レバーを握るーと手順を説明したあと、参加者が一人ずつ、模擬消火器（実際の粉ではなく水の入ったもの）からの「コーン」へ向けて水を噴射させました。

この中では質問に答えるなどの形で署員から「噴射は十三〜十五秒」「必ず背中側に逃げ場を確保しよう」「火が小さなうちに火の根元へかけよう」「火が天井に達したら消火器では無理。すぐに避難を」などの助言がありました。

◆「AED」は音声に従って

また、心臓の状態を電気ショックで元に戻す「AED（自動体外式除細動器）」の訓練では、消防署員が、①倒れている人がいたら車などに注意しながら近づき②頭を押さえないが肩を叩いて意識の有無を調べ③意識がなければ周囲に声をかけて一一九番通報やAED手配などを呼

「意外に簡単」の声も上がった担架作り体験⑦と、五目飯や味噌汁作りに活躍した食料班⑧



びかけ④胸や腹や口元の動きで呼吸の有無を調べ⑤呼吸が無いが弱い或不規則なら胸骨圧迫三十回と人工呼吸一回を繰り返して⑥AEDが到着したら電源を入れ⑦音声に従って電極パッドを右胸の上部と左胸の下部に貼り（その間にも胸骨圧迫は続け）⑧AEDが心臓の解析を始めたら胸骨圧迫をやめて体から離れ⑨「電気ショックが必要です」の音声の流れたら充電が始まり⑩「ショックボタンを押して下さい」の音声の流れたら誰も体に触れていないことを確認してショックボタンを押す⑪その後胸骨圧迫を続けながら二分おきに流れる電気ショック必要の有無の音声に従い⑫救急車が到着したら全面

的に任せる」と手順を説明しながら模範実演しました。

①の中では質問に答えるなどの形で署員から「胸骨圧迫(乳首と乳首の真ん中の硬い骨の下部分を五秒沈むくらいまで両掌に体重を乗せて強くかつすべ絶え間なく押す」骨が折れても心臓の方が大切なので押し続ける」ハッドは服の上からではなく肌に直接貼る」小児タイプもある」などの助言がありました。

◆ 簡単だった「担架(へいこ)」

また、けが人などの運搬に役立つ「簡易担架(たせが)つくり」の訓練では、港消防署員が、①まず毛布などの布を地面に広げる②その上にスランレス(物のほ)竿などを布の端から三分の一ほどの所へ平行に並べる③布を両端から折り返して少し重なるようにする④人を乗せて持ち上げ運ぶ」と手順を説明しながら模範実演し、そのあと幼児を含む参加者数人が体験しました。

①の中では質問に答えるなどの形で署員から「この布でも摩擦があるので大丈夫」などの助言があり、参加者からは「意外と簡単」「子供でもけいけい重いね」などの声があがっ

ていました。

◆ 区長は「地域防災計画」を強調

全この訓練を終えた参加者は校庭に集合。田端尚伸・港区長が「地域の実情に合わせた防災計画づくりの大切さ」を、港消防署・菊池栄祐消防司令が「公助を生かすための自助・共助の大切さ」を、近江隆司・田中地活協会長が「訓練を重ねながら質を向上させる大切さ」を、それぞれ強調しました。

このあと参加者は「炊き出しコーナー」へ向かい、「食料班」のゼッケンを付けた女性たちが作った災害時用の五百飯(いそひめ)又は白飯(いすれも)アルファ化米を二十五分間湯に浸けたものと味噌汁を受け取り、試食するなどした後、帰路



→ 地域実情に合った防災を強調する田端区長(上)と、積み重ねの大切さを強調する近江会長(下)

に就きました。

◆ 「積み重ねが大事」と参加者

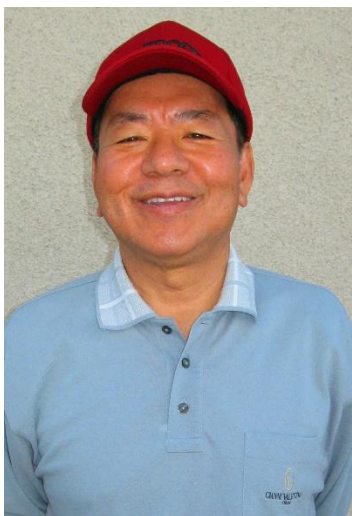
訓練終了後、娘の舞雪利ちゃん(四)を連れて参加した中松綾子さん(三三)「又田北第二町会Ⅱは「講堂では大震災の映像に改めて刺激を受け、家員固定などの準備をしておこう」と思いました。体験訓練ではAEDに子供用があることが分かり、安心。担架(へいこ)つくりは意外と簡単だったので、私にもできそう。毎回参加していますが、積み重ねが大事なので、これからも参加したいです」と話していました。

また車いすを押されて参加した佐藤敦隆さん(七八)「又田南町会会長Ⅱは「設備関係の仕事で重電物を持ちたりして腰を痛めたので、普段の移動には杖や電動自転車を使っています。今日は特にAEDの使い方が分かって良かったです。消火器はずっと前から扱っているのです。夫。毎回参加していますが、会長やからというのではなく、自分自身、いそいそと時にご運動かれんのが不安やし、防災は何ちゆつても積み重ねが大事。これからますます参加していこうと思います」と話していました。

叫びたい！

ここにまようし

小西 正敏さん（六四歳、田中）



消費増税するなら 社会保障に限定を

来年四月から消費税が八割から一〇割へ引き上げられます。政府と与党は、外食と酒類を除く飲料品全般を軽減税率の対象として税率八割に据え置くように留意しました。しかし、酒類は酒税法で区別があるが、外食は多様化してい

り、加工品の線引きが難しくなっているように、軽減税率を適用する飲料品とそうでない「外食」との線引き案をまとめました。それが大変ややこしいことは周知の通りです。

なぜこんなことになったのか。もともと政府与党は「財源確保」のため、税率引き上げに例外を認めない方針でした。が、与党の一員である公明党の猛烈な突き上げに遭って調整した結果、導入されたのです。つまり「福祉の党」を掲げる公明党が、支持層である低所得者向けにアピールするため自民と折り合いをつけた、いわゆる妥協の産物が「軽減税率」なのです。

◆増税のムチ、軽減税率のアメ

ではどのような施策に正当性はあるのでしょうか。そもそも消費税導入の際に政府がその目的を「社会保障費の財源」とした経緯を皆さんはよく存じでしょう。しかし実際には税収全体の穴埋めに使われてきたことも、これまで厳然たる事実です。その同じ道を再び歩まんがために、増税という『ムチ』を打ち鳴らし、それを軽減税率という『アメ』によって受け入れてもらおうとしているのが今回のやり方。国民にとって到底納得するわけでもありません。

◆欧米の消費税は社会保障に限定

とはいえ「社会保障費が増え続ける現状では増税もやむを得ないのでは」と思われる国民も多いと思われます。そこで同じような状況にある欧米先進国を見てみると、日本より前に消費税が導入され、税率は一〇割を超えるのが一般的です。しかし、その中身を見ても、社会保障のため限定的に利用されている、つまり目的税という性格がはっきりしており、日本のように税収全般の穴埋めとして安易に使われるものとは全く性格を異（こと）なっています。

◆社会保障への用途を確約し、検証を

国民の四人に一人が六十五歳以上という高齢化社会。国家予算に占める社会保障費が今後ますます増加するのは当然のことです。そんな中、ただでさえ苦しい国民生活をさらに苦しめて増税を強行するというのが、消費税が必ず社会保障に使われることを政府は国民に確約し、さらにはその検証結果を明らかにすべきです。でないと、国民の理解を得ることはまず不可能でしょう。読者の皆さんはどう思われますか。

よりのよい学校へ熱気

港区PTA協議会が研修会



「よりのよい学校へ共に学び合おう」との熱気が溢れた港区PTA協議会の研修会。十一月二十八日、市岡中学校で（写真は広報の分科会）

「よりのよい学校へ」のために、共に学び合い、活動水準を高めよう」と今年も十一月二十八日（土）、市岡中学校で「港区PTA研修会」が開催されました。各校PTAの役員ら二百数十人が参加し、それぞれの担当分野の講演に耳を傾けました。港区PTA協議会（区P、山本慎一（しんいち）会長）が主催、大阪市PTA協議会が後援。

全体会では山本会長が「研修を通じてPTA活動の質を向上させましょう」と呼びかけ、大阪市PTA協議会・小林良堂（りょうどう）会長からは激励のあいさつがありました。そのあと「広報活動など五分野に分かれて分科会が行なわれました。

◆ 広報活動にアドバイス

このうち「広報活動」分科会では「伝わる広報紙となるよう編集スキルの向上を目指す」とをテーマに、そのスベレ園部芳裕（よしひろ）座長（区P広報委員）のもと、本紙代表・飯田吉一（よしかず）が各校の広報担当三十三人に「よりのよい広報紙づくりのために」地域新聞発行の経験から課題として講演しました。

（この中で飯田代表は、まず一般的な助言として、①紙面を見やすくする（内容見出しで引き付ける、写真説明で写真を生かすなど）②記事

「次々と来場する各校PTA役員を迎える受付（上）と、広報紙の編集スキル向上へ学び合った「広報活動」分科会で講演する本紙・飯田代表



内容を整える（5W1Hを基本に、記者の体験や感想も入れて生き生きした内容に）など③記事の幅を広げる（地域愛を育む地域史なども扱う、学校選択制など難しいテーマも取り上げる）など④発行の原点に立つ（よりのよい学校づくりという目的を忘れない、PTAの目標や校訓を掲げる）など――の四点を挙げ、「発行ごとに学校の歴史を綴っていることを意識し、百年後にも残る広報紙に」と激励しました。

その上で、各広報の紙面を個別に講評。「素晴らしい点」として「記事内容が充実しており、編集者の努力が伺える」「写真の表情が生き生き

しており、カメラマンのセンスが感じられる」などを、「改善すべき点」として「機械的な見出しに内容的な見出しを加えるとインパクトが増す」「写真に説明を添えたら写真が生き生きする」などをあげました。

参加したある学校の広報担当女性は「写真説明を入れる、主見出しと副見出しの二段構成にするなど、ちょっとした工夫と努力で紙面が良くなるのが分かり、有意義でした。一つでも二つでも生かしたいです」と話していました。

◆ 学級活動やスマートフォンもテーマに

このほか「学級活動(小学校)分科会では「学



→スマートフォントラブル防止について学ん

だ「青少年活動・学級活動」分科会(上は講演

下は映像での学習)

級活動のあり方について」をテーマに、宇都宮市(まふみ)幹人座長(区P学級(小)委員長のもと、二十一人が、望ましい学級活動のあり方や各単位PTAの取り組み・問題点・今後への提案などを発表。平力・波除小学校と井上悦治・池島小学校の助言も得ながら、こつとした問題についての認識を深め、今後の学級活動への糧(かた)としました。

また「青少年活動・学級活動(中学校)分科会では「スマートフォンでのトラブル防止について」をテーマに、前川勝則座長(区P青少年活動委員長のもと、小野雄一・港警署生活安全課係長が講演。三十九人が、畠野耕一・港南中学校の助言も得ながら、普及が進むスマートフォンにどんな危険が潜んでいるのかを学びました。

また「人権啓発活動」分科会では「急速な高齢化社会に向けて」をテーマに、下村靖民座長(区P人権啓発委員長)のもと、大森益之・港区社会福祉協議会地域活動担当が講演。二十七人が、武林富男・港晴小学校の助言も得ながら、少子高齢化の中で増える認知症について、認知症サポーター養成講座の経験などから、自分自身の問題として考え合いました。

「謎解きゲームを通じて応用力やコミュニケーションの大切さを学んだ」役員・成人教育分科会(上はゲーム体験、下はイベント制作)



また「役員・成人教育」分科会では「謎解きゲームを通じて応用力やコミュニケーションの学習」をテーマに、宮本隆司座長(区P会計監査)のもと、九十七人が、まずオリジナルの謎解きゲームを体験し、柔軟な知識の応用やコミュニケーションなど様々な気づきを確認した上で、謎解きイベントの制作ノウハウを学びました。忙しい仕事や生活の中で時間を割いて参加し、熱心にメモをとるPTA役員らの姿に、「愛する子供たちのため、少しでもよい学校にしよう」「そのためにPTA活動の質をもっと向上させよう」との熱意が感じられた催しでした。

粘り強く闘おう！

労働者と地域で「団結もちつき」



→「二〇一六年も餅のように粘り強く闘おう」と元気に餅をつき続ける労働者＝十二月十二日、南市岡の田中機械構内で

「苦しい時こそ餅のように粘り強く闘おう！」「労働者と地域住民が力を合わせよう！」「協議組合を応援しよう！」。伝統の「団結もちつき大会」が今年も十一月十二日（土）、南市岡三丁目の田中機械構内で行なわれました。港区を中心とする中小零細労働組合・労働者の集まりである全国金属機械労働組合「港合同」と同もちつき実行委員会が主催、平和と福祉を掲げる特定非営利活動法人「NPOみなと」が共催。四十五回目となった今回は「安倍政治・おおさか維新を許さず二〇一六年も闘おう！」がスローガンとして掲げられました。

◆ 地域と労働者が一体で

大会では例年通り、予約していた地域の人々が前日から餅米を水に浸けて準備し、午前中に持ち寄り、それらを港合同の労働者が無料で蒸し、搗ぎ、丸めて手渡しました。「はい」「ほい」「よっしゃ」などと威勢の良い掛け声を発しながら石臼へ杵を振り下ろす青・壮年労働者。スロープの上の蒸籠の番をしながらその様子を頼もしげに見守る高齢労働者。搗き上がった餅を台の上で手早く切り、丸めながら談笑する女

→「反撃の闘いを強めよう」と訴える港合同・中村吉政委員長①と、「戦争法の廃棄を」と呼びかける港合同・玉置雅彦事務局長②



性労働者。安倍川（黄粉餅）などをふるまわれて喜ぶ地域の参加者。寒気の緩みで餅つくりが例年を上回るペースで進展する中、労働者と地域一体の和やかなムードが印象的でした。

◆ 「盛り上がり」を来年に「中村委員長

午後一時からは労働者集会を開催。主催者あいさつに立った港合同・中村吉政委員長が「住民投票で都構想を否決したが、ダブル選では巻き返され、戦争法も強行採決された。が、これで終わりではない。既に戦争法の違憲性を訴える運動が全国で起り、大阪では橋下維新による公務員労働者の権利剥奪への反撃が強まっている。こうした盛り上がり」を来年へつなげて

い「こ」と呼びかけました。

次いで労働組合や平和・人権・民主団体の代表が次々とあいさつに立ち、右への流れは労組の力が弱いから。脅しに屈すると高にかかって来る。弾圧をはねのけるには行動が必要。ストライキも打てない組合は組織拡大もできない。頼れる姿を示すことで組合員を増やそう（生コン労働者）「労組同士が力を合わせる」ことが大切。組合の枠を越えて産業別の課題に取り組み（関西合同労組）「入れ墨調査を拒否して見せしめ的な懲戒処分を受けた。橋下市長の不当労働行為は明らか。屈せず闘う」（公務員労働者）などと訴えました。

◆「戦争法廃棄へ全力で」玉置氏

このあと玉置雅彦・港合同事務局長が基調提起に立ち、大要次のように述べました。

「軍部の独走で戦争へ突き進み、三百万もの犠牲をもたらした歴史への反省から日本国憲法が生まれたが、これをないがしろにしたのが戦争法。国が県を訴える異例の事態となった沖縄では、知事が『日本に民主主義はあるのか！』と県民の怒りを代弁した。米軍は銃剣とブルド

「お喋りしながら餅を丸める女性労働者や子供」と「団結がんばろう！」を唱和する労働者



ーザーで土地を接収したが、安倍政権は周辺自治体へ頭越して交付金をばらまくなご札束で県民の面を張っている。企業が世界一活動しやすいようにと成立した労働者派遣法は、企業だけが栄え、労働者・庶民は苦しい社会を到来させるもの。これが戦後七十年の法治国家の実態だ。こつした安倍政治と同根なのが大阪の維新。改憲の露払い役は明らかだ。自公の横暴が目立った一年だったが、これに抗する運動の中で幅広い層が『民主主義とは何か』『立憲主義とは何か』を自らの頭で考えつつ決起し、国政変革の可能性を見出した。憲法十二条には『この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努

力によって、これを保持しなければならない』とあるが、まさにその努力が今、求められている。その中心的課題としての戦争法不発動・廃棄の闘いを全力で闘い抜こう

このあと参加者全員で「団結がんばろう！」を三唱、二〇一五年を締めくくりました。

◆「力合わせる大切さ実感」と青年労働者

参加者のうち、団結鉢巻きと法被姿で臼の餅をこねていた尾崎剛さん（三七）＝港合同昌一金属支部＝は、福岡の昌一金属㈱（電線や電柱に付属する金物の製造・販売を事業とする老舗メーカー）で勤続八年、職場では生産現場を担当しています。「この催しには一年の締めくくりとして毎年参加し、元気をもらっています。妻と子供二人（中学一年と小学四年）を抱えて生活は楽ではありませんが、毎年の賃上げなどで労働組合の力を実感し、また仕事での連携を通じて、一人では何もできないけれど、皆で力を合わせれば一歩ずつでも前進できることを学んできました。世の中で気になるとはたくさんありますが、組合で少しづつ勉強していくつもりです」と話っていました。

不当解雇許さない！

労組結成の金属労働者が抗議



→「労組結成を理由にした解雇は不当労働行為。直ちに撤回を」と抗議のストライキを行なう Sさんと支援の労働者＝十二月十九日、区内

「労組結成を理由にした首切りは不当労働行為。直ちに撤回せよ！」。港区内の金属系正業に勤める港区在住の労働者が抗議の声をあげ、支援を受けながら闘争を続けています。

◆ 発端は安全问题

問題の発端は職場の安全问题でした。支援活動を行なう関西合同労働組合(西成区)によると、この企業＝S社は現場叩き上げの社長が一代で立ち上げ、三菱重工業や日立造船やH-I(旧・石川島播磨重工業)など日本を代表する超大手金属系企業の下請けとして、シールド(掘削)機械や高速道路の橋桁に使う大規模で高難度の曲げや溶接を一手に引き受けて急成長。港区と大正区に三棟の工場を持っています。現場労働者は十数人と少数ですが、四十人づつを一人で操作できるなど、学歴や資格はなくとも技術は一級の一匹狼的な者が多く、そんな彼らに難しい仕事を短期に低コストでやらせて莫大な利益を上げてきました。が、数々の労働基準法違反、労働安全衛生法違反を犯すことで、工場内では大小の事故が日常的に頻発していたといわれています。

◆ 一人で組合を結成

そんな中、契約社員のスさんは「このままでは大怪我や死に事故が起こり兼ねない」と危惧。「こんな現状を変えるには、会社と対等に交渉できる労働組合を結成するしかない」と決意し、昨年二月に一人で労組を結成したのです。

そして単身、始業・終業・休憩時間の厳守など労働条件改善の要求運動を粘り強く重ねる中で、経営側もようやく「事故は労働者のせいとばかりは言えない。会社にも責任がある」と認め、無免許で運転させていたクレーンの免許を取らせるなどの対応策をとり始めました。

◆ 一方的に解雇を通告

ところが、経営側の圧力もあって、一人だけの組合が続く中でも、その献身的な労働環境改善運動に対して、現場はもちろん管理職からも無言の歓迎が示されるなど、組合活動が職場に浸透してきたことに経営側は危機感を抱き、十二月三日の交渉の中で、Sさんが関係した七月の事故(荷を高く積み過ぎたため高速道路のトンネル天井に引っかかった)や年齢(六十代後半を口実に、「能力に不安がある」「運送部門は

外注(傭車)で賄つた「仕事がなくなったから」
〇二五年末を以て契約を解く」「それまで給料
は支払つが自宅待機を命じる」旨の通告を一方
のに行なつたのです。

これに対してSさんは、解雇(雇い止め)をそ
の場で拒否。しかし経営側はガードマンを使つ
てSさんの排除を図り、これに抗議したことを
以て「ガードマンに暴行を働いた」として警察
に通報。Sさんは逮捕されるに至りました。し
かし翌日、警察は「勾留(うけとど)の理由なし」として
Sさんを釈放しました。

◆支援つづけ闘争つづける

Sさんはその後毎日出勤。十一月十一日の
交渉では経営者が「解雇理由はSさんが労働組
合を作つて会社に意見したからである」「ガード
マンや警察を使つても解雇を責めつつもりであ
る」旨を公言。以後、全面的な対峙状態のまま
現在に至っています。

この間、十一月五日、十九日、二十五日には、
関西合同労組や地域労働者の支援を受けた抗議
集会やストライキ(早朝 時間の制限)が構内
で波状的に取り組まれ、参加の労働者から「明日

は我が身。共に闘つた(公務員)などの声がかかる
と共に「解雇撤回!」「闘争勝利!」のシュプレ
ヒットが近隣に響き渡りました。

◆全ての労働者のために

こうした状況について関西合同労組は「組合
活動が理由の解雇は明確な不当労働行為。また
六十五歳定年が理由の解雇は年金切り捨てと一
体で、全ての労働者の生きる権利を奪つもの。
年齢が幾つになつて生きているために働き続ける
権利がある。これを許すことは全ての労働者の
一層の無権利と労働強化に繋がる」とし、完全
撤回まで支援を続ける意向を示しています。

1人で悩まないで!

職場に組合のない人、アルバイト、パート、
臨時・契約労働者……。ユニオンおおさかは
ひとりでも、誰でも入れる労働組合です。働
く人々が地域で助け合う新しい組合です。
毎月の会費は、収入に応
じて1000~3000円。
経験豊かなスタッフが親
身になって解決へ努力し
ます。まずお電話下さい。
無料。秘密守ります。

ユニオンおおさか

☎6575-3133 築港1-12-27 労働会館内

啓蒙的・実益的な情報

あれこれガイド

● 第八回あいだぶ祭り 障害者施設と地域と

の交流めざして隔年で開かれるイベント。一月
十八日(土)十一時~十五時、あいだぶ工房港晴
一・七・四、市バス港晴「停留所から歩二分、
港晴小学校の西側)で。舞台発表(マジック、手
話歌、福引など)、模擬店(カレーライス、フラ
ンクフルト、唐揚げ、デザート、飲み物、ゲー
ムなど)、展示あいだぶ工房や関係施設の紹介
など、焼きたてパン販売など。模擬店と焼き
たてパン販売は十一時半~十三時十五分。同工
房は、知的・肢体・視覚などの障害を二重二重に



→ 前回の「あいだぶ祭り」(二四年一月から

併せ持つ重度の聴覚障害者が、仕事や生活や活動を通じて、人としての豊かな暮らしや労働や社会参加を実現していくための施設。社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会が運営。問い合わせは同工房(☎四三九五・七五八八、FAX四三九五・七五八九)へ。

●「ワークみなと」「東北食品市」 東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(☎四一六・三、☎六五七一・七五二一)。

●「繁栄ワイワイ市場」 商店街に個性的な露店

がズバリ。各地で活動する様々な分野の業者が一堂に会することで業者同士の交流と商店街・地域の活性化をめざす。毎月第二十曜の十～十六時、繁栄商店街(南田岡二丁目)で。手作り小物販売、似顔絵、さおの織体験、野菜市、沖縄

←過去のワイワイ市場から(上はアクセサリづくり、下は針金細工&組み紐)



物産販売、唐揚げ販売、窯焼ヒッツア販売、LED照明PR、保険案内、占い、マッサージ、バルーンアート、ネイルアート等々。月替わり特典あり。主催は繁栄商店街振興組合。問合せはふとん館ひらのや(☎六五八二・〇三二六)へ。

●「ムチ打ち」省・腰 無料相談会 交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。一月二十四日(日)十～十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一六〇八)で。

一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで)。「どうしたら正しいな補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。E

メール: info@jikko110-nomura.com、TEL六五七六・六〇七八、FAX六五七六・六〇七九。

●「障害年金もれの心当たりある人は相談を

障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年金を受けられるのに請求手続きをしていない人が相当数(身体障害者では〇・四割)二万人程度に上ることが厚生労働省の調査で判った(二三年七月)。原因の大半は「障害者手帳に記載

されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級にすれがある」と。このため、例えば、実際には三級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分は受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければいつまでも支給されない。心当たりのある人は市岡年金事務所(磯路二・二五・一七、☎六五七一・五〇三二)まで。

●「緑の地球ネットワーク(GEN)」 中国山西

省大同市の黄土高原で一九九一年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力をあわせている。次のよ

うな協力方法がある。①会員になる＝年会費一

万 千田②会報を購読する＝年間 千田③カン

パする＝税制上の優遇措置あり④絵はがき『黄

土高原の花』を購入する＝八枚組＝三百円⑤テ

オ『よみがえる森』を購入する＝三十分五千円

⑥換金できる物を送る＝古切手・書き損じはが

き・外国「イン・商品券など⑦ボランティアにな

る＝会報発送など⑧黄土高原スタディツアーに

参加する＝黄土高原を訪問し、緑化協力の成果

を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻

す試みを体験。次回は四月九日(土)～十五日

(金)の六泊七日。費用は一般十九万七千円(学生

割五万五円)。定員二十名程度⑨DVD『黄色い

大地に広がる緑々草の根環境協力の二十年』

を観る＝緑化協力二十周年を記念して制作。約

三十分。無料⑩関連イベントに参加する＝GEE

N自然と親しむ会(淀川野鳥観察)二月八日(土)

～十五時頃。淀川沿い。雨天中止。高田直俊・

元大阪自然環境保全協会会長が案内。参加費七

百円。定員約二十名。京阪「樟葉」駅集合→同「枚

方市」駅解散。申込＝二月二日(土)～いずれも詳細・

申込などはGEEの事務所(市岡一・四・一四

↑GEE④とクリニックラウン⑤の活動イメージ



・五階、☎六五七六・六二八一、FAX六五七

六・六二八一、Eメールgentree@s4.

dion.ne.jp ホームページhtt

p://gentree.orgへ。

●日本クリニック協会 入院生活を送る

子どもたちを定期的に訪問し、遊びとユーモア

を届け、笑顔を育む臨床道化師「クリニックラ

ウン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法

人。二〇〇五年から港区を拠点に全国で活動(二

〇一五年八月から大阪市北区に事務所)▽支援

の方法＝寄付する「会員(活動会員・賛助会員)

になる「メンバー」(ひと月単位の「サポーター

になる「関連イベントに参加する」他)▽いずれ

も詳細や申込は同協会事務局(大阪市北区末広

町三・一・一 天しもビル3B、TEL四七九・一

・八七二六、FAX四七九・一・八七四六 Eメ

ールinfo@clinic-clowns.jp

ホームページhttp://www.clin

iclowns.jpへ。

●石綿(アスベスト)パンフ 肺がん 中皮腫な

どの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、

それらによる死亡が「アスベスト(石綿)による

ものだ」と認められたら、色々な給付を受けるこ

とができる。このパンフレットは、そんな人た

ちや家族のために、①石綿による病気にはどん

なものがあるか②石綿による病気と分かった場

合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか

③その場口どこへ問い合わせたらよいかな

どを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再

生保全機構(ERCA)がまとめたもの。タイト

ルは『その病気、その症状は石綿(アスベスト)

が原因かもしれません』港区で暮らすか働いて

いる人なら港区役所(市岡一・一五・一五三階

の港区保健福祉センターのチラシスタンドに設

置してあるものを無料でもらえる。

みなとサロ

十七条憲法は時を越えて

池島・勝部 泰臣 八十歳

「和を以て貴しとなす」。『存じ聖徳太子の作った十七条憲法の第一条がこれ。千四百有年前、推古天皇の皇太子が摂政として、民衆にはなく官人(官吏)への道徳的訓戒を説いたものだそうだ。

役人は礼を根本にせよ(四条)。「馳走や贈り物などへの欲望や誘惑を捨てて公正な裁判をせよ(五条)。人民の使役は冬の農閑期に行ない、春からは農耕・養蚕の時期だから使役してはならない(十八条)。重要な事は独断で行なわず、必ず人々とよく議論を尽すように(十七条)になすな。今の政治家(官吏)諸兄に進軍したい言葉の数々である。

「時代が変わったから」と何かにつけて言われ、耳にする。が、今の日本、物は豊かでも人としての心の豊かさが欠けているように認識は

誰もがかなり小なり持っていると思う。

明治維新からこつち、西欧文化に触れて、「負けるな、追い越せ」と頑張った祖先たち。途中、あの忌むしい戦争を経て、主にアメリカの影響で、日本人としての誇りの高き「質素・倹約・勤勉」の精神が薄らいできた。上領当時は、この日本人の体質や社会風俗を変え、軟化させることが、アメリカをはじめとする各国の目的であつたらしい。結果、精神よりも物質という「合理主義」が蔓延り、限りなき欲望の追求が人としての生き甲斐のように心の中に植え付けられてしまった。ここ数年、その溜りに溜ったツケが来ているように思えてならない。

他人への思いやり、助け合い…。あの戦後の貧困時代の精神を今一度思い起こして奮起したいが、そついつ人は、スマホ遊びも出来ない高齢者はかり。「年寄りの冷や水」などと若い人に冷やかされる前に、退散すべきかな…。

池島ふれあいまつりの熱気味わえた

(市国元町・七十年代 元公務員)

十二月日は「雨」はした庶民の息吹！ 第

三十五回池島ふれあいまつりに数千人(二頁)の迫真のルポに読み入りました。去年は親戚の集まりで参加できませんでした。が、今年は午後妻と連れ立って一時間ほど会場を回りました。ちょうど雨が降り出した頃でしたが、見出しにあるように、まさにその雨を飛ばすような熱気と活気が会場にみなぎっていました。記事ではそんな様子が写真と共に詳細に記され、改めて当日の臨場感を味わうことができました。

中でも庄巻は、来場者へのインタビューです。区民まつりの感想(十二月号)でも書きましたが、あの慌ただしい中で、よくこれだけの人数から、しかも一般参加者だけでなく出演者や実行委員まで、それぞれ立場の異なる人たちから聞き取りをされたと感じています。

また、最後に「個人主義が幅を利かす中で失われつつある、心を合わせよう」の大切さを地域の大人たちが身を以て青少年に示し続けている」という、この催しの一番の意義を読者に強調しておられること、さらにその上で、主催が地活協に移ったことによる実行委員の不安など、今後の改善を期待しての厳しい提言も入

れておられることが、記事に一層の重みを加えていました。

毎雪のたびに、詳細な記録に留まらずに記事に、「ふりふり港区へへりに貢献する」という発行目的に偽りのないことを感じています。

区画整理の歴史展示を築港に

(区内・六十代女性)

十二月の区政会議の記事にあった西市議の発言(九頁)で、築港が「大阪都市魅力創造戦略」の重点エリアに位置付けられていることを知り、それならば、一方で築港への若い世代の移住を期待しながら、その一方で築港の大阪みなど中央病院を弁天町駅前へ移転させるという今の港区のプランは、矛盾しているのではないかと感じました。同じく築港の山田さんが「築港の医療を守る」と運動されている記事(十頁)も目にし、ふけいそう思いました。

やはりいつも、この移転計画はもう決まっています。今やふけいといふつもりもないと思います。が、その上では、平成二十三年に弁天町駅前建設をむね「交流会館」の中の

「辻悦子さん(市岡元町)からの絵手紙」



歴史展示スペースを切り離し、同病院の跡地築港へ持つて来たというところだと思います。というのは、弁天町駅前の限られた土地(しかも同病院がその六割超を占める)と聞いています。に、交流や学びや防災など、何もかも役割を詰め込むのは、スペース的に無理があると思うからです。幸い同病院の跡地は、ファミリーマンションにこの案はあるものの、まだどうなるか決まっていないうところですから、今からでも調整は可能なのではないだろうか。と。いつか、病院の穴埋めも竟(つい)ない地域にマンション計画だけ先走って、入居者があるものでしょうか。港区の戦後の区画整理事業は、私も幼い頃にその一端を経験していますが、当時の皆が日常

生活に長期の不便を感じながらも辛抱し、文字通りの区民の総力を挙げて地上げを成し遂げ、水害に強い街を作り上げた、世界にも誇れる大事業です。その歴史を区民、特に若い世代にしっかり学んでもらい、誇りを持つてもいいことは、これからの港区の発展に絶対必要です。そのためには、いまフーキングで検討されているような「交流会館」の中で最小スペースに「図書館の一角」などの中途半端なものではなく、他の自治体のような独立した施設にするべきです(池田市や岸和田市の歴史館は大変見応えがあります)。また、そんな施設が築港にあることで、「都市魅力創造戦略」の重点エリアとしての築港の活性化もできるのではないだろうか。

以上、素人の拙い閃きかもしれませんが、ぜひ区長にも読者の皆さんにも「きいて頂きたい」と思い、筆を執った次第です。

笑わせて世界観問った「あややけ」

(三晃・ライター)

職業柄、いつも「あややけ」から読みますが、十二月(三十頁)も面白く勉強になりました。

た。「一線を越える」とこの怖さをテーマに、まずは誰もが知る民話やお伽話^{おとぎばなし}で引き付け、そこから連想ゲームとやらで「維新」評へ進み、最後に根本的な世界観・人生観を読者に問う。いつもながらのそののしない展開ですが、今回は特に個々の表現の面白さが際立^{きわ}っていました。フィケメンがイクメンになった「二度つけアカン」「おおばか」「いや」「おおさか維新の会」「政党助成金持ち逃げ」「二万円確か」「ぼな好きになはれ」「罰ゲーム」等々。これだけでも充分楽しめましたが、やはり「一線を越える」とこの功罪を何より考えさせられた「ラム」でした。

安倍政権の責任を感じさせた提言

三先・六十代 商店主
「叫んでいいともー」を毎週最初に読んでいます。土曜日では、「派遣労働者を恒常的にする労働者派遣法の改悪」という大野ひろ子さんの提言の二四頁からは、ますます企業本位に世の中を変えていく国会（結局は安倍政権と財界でしよつか）のあり方が、「介護施設にカジノ書」にかならないように小西正敏さんの提

言（二十五頁）からは、ますます利用者（国民）の求めから離れてゆく介護の在り方（これも結局は安倍政権や大手企業の責任でしよつか）が、それぞれ感じられ、大変勉強になりました。特に小西さんの提言からは、お母さんの世話を通じて実感する介護保険の矛盾をこれでもかと決^える気迫を感じました。

若い人が人生設計描けぬ国の政策

（磯路・陸地昭子）

大野ひろ子さんの「派遣を恒常的にする労働者派遣法の改悪」（土曜日二十四頁）を読みました。私が二十代の頃は、正社員で働くのは当たり前で、派遣社員という言葉もありませんで



→ 尾崎妃努^{きぬ}子さん（池島）からの絵手紙

した。いつから、なぜ、こうなってしまったのか、私にはよく分かりません。が、この制度で恩恵を受けるのは、大手の派遣業界や大企業であって、労働者ではないことが、大野さんの提言でよく分かりました。日本では人口減少や働く人の不足など、いろいろな問題があり、その中で、若い人が安心して働くことができ、結婚・出産と将来の人生設計を描けるような労働環境を整える必要があると思います。しかし、国の政策は正反对で、働く人をあまりに粗末にしている気がします。

胴体着陸^{どうたいちく}びびり「戦争体験」

（八幡屋・四十代一児の母）

「平和のため戦争体験語り継ぐ」を愛読しています。よく利用するオリオン書房の『主人の戦争体験』という本で、興味深く読んでいますが、土曜日（四十一頁）では、戦争中よりも、戦争が終わってから、ものすごい体験をされたことに驚きました。部隊のみんなで申し合わせたといっても、命令に背いて飛行機を逆方向（日本）へ飛ばすという行為は、いつも

ない勇気と決断が要ったと思います。森さんはその副操縦士として、危険極まりない胴体着陸を成功させたのですから、まさに奇跡の生還の立役者といえるでしょう。これは悲劇ではなくむしろ喜ぶべき事件かもしれませんが、これも戦争の二つの姿として私たちは語り継いでいかなければならないと思います。子供にも読んで聞かせましたが、胴体着陸の場面では手に汗握る様子が伝わったのか、とても真剣な表情で聞いていました。写真も含めて、戦争体験者の貴重な歴史を、こうして読みやすい形で残して下さる港新聞の「努力」にいつも感謝しています。

楽しみながら健康者になったイベント

(築港・三十代 一児の母)

十二月号に拙い感想を載せて頂き、びっくりしました。この号では私も行った「健康フェスタ」の記事(十一号)が良かったです。一昨年も去年も参加しましたが、本当に、楽しみながら健康について考えられる、とても素敵なおイベントです。記事からは、そんな雰囲気がよく伝わってききました。子供にフッ素塗布(とふ)しても

らにに家族で来た三十代男性の感想が載っていましたが、フッ素塗布は私の子もしてもらったので、私が感じたのと同じことを言っておられると思いました。ネットで読んですが、温かな記事をこれからも楽しみにしています。

「おもちゃ病院」に平和を感じた

(此花区・八十代 戦争体験者)

ネット読者です。十二月号では「ドクターは大忙し おもちゃ病院 喜ばれて一年半」「三十一頁に平和を感じ、心温まりました。立派な大人が小さなおもちゃと真剣な姿勢で格闘されている写真が何とも微笑ましく映りました。とはいっても、おもちゃの病気や怪我には軽症から重症まで色々あり、それに応じて様々な治療が施されるという点で、ホフンティアといっても大変な労力を要することが分かりました。しかも治療は無償。子供やおもちゃが好きでなかったらとても出来の点ではないでしょう。ドクターの皆さんの献身的な苦勞に頭が下がる思いでした。今、病院はとても繁盛しているという点で、書いている限りですが、ホフン

ティアの皆さんに無理が来ないよう、できれば長く続けられることを願っています。

参加者の声で分かるイベントの目的

(磯路・六十代 パート女性)

毎月冊子を届けて頂き、ありがとうございます。十二月号は「健康フェスタ」「健康まつり」「港のこころ」「海の子まつり」「あゆみ福祉まつり」等々、医療や教育や福祉をテーマにした催しの記事が多かったように思います。それだけでなく、楽しみながら医療や教育や福祉について考えさせるイベントで、参加者の感想にそれが表われていました。イベントの模様だけでなくこのように参加者の声を知ることで、その目的がよりはっきりと分かるように思いました。中でも面白かったのは、「健康まつり」での谷田敏子さんと、お連れの男性の感想。健康のために習慣にしていることをいつも楽しそうに話っておられ、思わず笑ってしまいました。「港のこころ」の中馬徹(のま とと)さんの感想も、学童保育のお仕事と今の社会を結びつけた、とても真面目なもの。『港のこころ』と感心しました。

健康・友愛・奉仕を推進

港区老連が「老人クラブ大会」



→「健康・友愛・奉仕の三大運動をいっそう推進しよう」と確認し合った「港区老人クラブ大会」 11月25日、港区民センター

健康・友愛・奉仕の運動をさらに進めていこう。港区老人クラブ連合会(区老連)原田壽会長、二王クラブ・二五八〇会員主催の「第四回港区老人クラブ大会」が11月25日、港区民センターで開かれ、五百人以上が参加しました。

◆「さんま祭り」で復興支援と原田会長

大会では山口薫総務部長の司会のもと、藤家順副会長の「クラブ大会宣言」に続いて原田会長が主催者挨拶に立ちました。

この中で同会長は一年間の活動を回顧。特に四年目となった被災地支援「さんま祭り」に触れ、①十月には港区民まつりで開催し、千八百尾を完売、中学生には三年続けて協力してもらった②十一月には大保山まつりでも開催し、九百尾を完売した③収益を大船渡市へ送ったら「早期復興のため大切にに使わせて頂きます。皆様のお気持ちを糧に、職員一同、一層の復興に努めます」との市長からの礼状が届いたと報告。「これも区役所などの協力あつての活動」と行政の支援に感謝すると共に、「完全復興まで引き続き頑張りたい」と決意を表明。その上で「こうした活動を通じて、これからも心豊かな地域

「さんま祭りなどでこれからも被災地支援を」と呼びかける原田壽会長(上)と、「交流会館を新たな拠点に」と呼びかける田端尚伸区長(下)



社会をめざし、『介護される側から介護する側へ』を合言葉に、『健康』『友愛』『奉仕』の三大運動に力を合わせましようと呼びかけました。

◆「交流会館」を新たな拠点に」と区長

また来賓の田端尚伸・港区長は「老人クラブとしての本来の活動をしながら、さんま祭りでは協力の中学生に炭火おこしを教えるなど、他の世代とも交流・連携し、楽しみながら社会貢献をされている」と区老連活動に敬意と感謝を表明。その上で、「今年は戦後七十年。大空襲で壊滅した港区を復興させよう」と戦後四十五年かけて区画整理事業が行なわれ、それを記念して

平成三十三年、井大町駅前に交流会館が完成する。その中身については区老連からもワーキングに参加してもらって検討が進んでいる。ここを新たな拠点に活動がさらにパワーアップされるよう願っている」と期待を表明しました。

◆「老人の元氣は地域の元氣と大老連

同じく来賓の數本冬樹・大阪市老人クラブ連合会事務局長は「少子高齢化で一人暮らしや夫婦だけの世帯が増え、地域のつながりが希薄になる中、老人クラブの役割はますます重要になっている。港区老連はさんま祭りなどで大きな成果を上げている。これからも『老人クラブの元氣は地域の元氣』の信念のもと、健康・友愛・奉仕の三大目標を掲げ、明るく心豊かな社会へ力を合わせまいよう」と呼びかけました。

◆「活動を支援」と大阪市や議員

同じく来賓の内村正・大阪市いきがい課課長は「健康づくりなどを通じて地域づくりの活動を市も支援していきたい」、井上英孝・衆議院議員は「被災地支援や街づくりの活動を安心して楽しめるような環境づくりに努めたい」、太西宏幸・衆議院議員は「クラブ活動を通じて楽し

いピアノ力で『王将』などを演奏する区老連女性部」と、舞台上に拍手を送る区老連会員



い人生を」、山本長助・大阪市議員は「少子高齢化の中で老人クラブが結び目となった世代間交流に期待」とそれぞれ祝辞を贈りました。

◆会長動続など表彰

一年間の区老連活動の先頭に立つた役員紹介などのあと、天寿会(港晴)・小西昭人会長が勤続十五年で、若竹会(波除)・薮井清澄会長と築老クラブ(築港)・藤家順会長が勤続十年で、第一田中長寿会(田中)・大森慶孝会長が勤続五年で、築友会(築港)・岡本白百合子会長がクラブ結成十年で、それぞれ表彰を受け、代表して数井会長がこれを機に、健康・友愛・奉仕の活動をさらに進めて参りたい」と決意を述べました。

◆女性部がピアノ合奏

最後に区老連女性部が登壇。辻合隆子部長の「平均年齢七十五歳、元氣に練習しています」との自己紹介のあと、『影を慕いて』『王将』『南国十佐を後にして』、さらにアンコールに応えて前説入りで『かえり船』を合奏。懐かしも美しい旋律に会場から唱和が起りました。会場には「戦中戦後の苦難を乗り越えた経験を生かして地域社会に一層貢献しよう」との熱気が溢れていました。

なお、この式典終了後、年末恒例の「カラオケ大会」が催されました。三十一頁に「記事」

子や孫に 自分の人生を のこそう!

400字(原稿用紙1枚)で
千円が標準料金です。

島根県から上阪し、金属系企業で働きながら労働運動にも力を注いできました。全国的な運動退潮の中、10数年前に第一線を退きましたが、この間の経験と教訓がいつの日か運動の再興に役立てばとの思いから港新聞に相談し、冊子にしてもらいました。(70代男性)

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

花で描いた思い出

田中小六年生が卒業花壇づくり



→「卒業花壇の完成や!」と喜ぶ田中小六年生と協力の港区花みどり友の会会員(緑ジャンパー) 12月4日朝、八幡屋公園南面花壇で

六年間の思い出を花で描いたよ。十月四

日(金)朝、八幡屋公園で田中小学校六年生が「卒業記念の花壇」を制作しました。一・二年级・六十数人と担当教諭が参加、一般財団法人大阪スポーツみどり財団・八幡屋スポーツパークセンター(田中三丁目)と港区花みどり友の会が協力。

曇り空の下、時折り強い風が肌を震わせ、児童らは九時半に同公園の南面花壇前(みなと通側)に集合。スポーツパークセンター職員のおき沖さんが「卒業記念の花壇づくりは初めての取り組み。皆さんの思い出になれば嬉しいです」友の会の高田博美さんが「皆さんのデザインを元に作ります。寒いですが、元気に植えましよう」と呼びかけました。

「ハート」や「流れ星」の図柄で

このあと児童は八班に分かれ、図柄が予め土に下描きされた六つの花壇の周りへ。一人一人軍手をはめ、その下描きに沿って小スコップで幾つも穴を掘り、同センターが用意した数多くの苗ポットから苗を抜き、次々と埋めていきます。「田中小」花壇には葉ボタンとビオラが、「流れ星(ハート)」花壇にはビオラが、「四つ葉のクロー

「下描きに沿って①、スコップで穴を掘る②



バー(ハート)花壇にはリュウノヒゲが、「アイ(ハート)花壇と三つ葉(ハート)花壇にはジュリアンが、「スマイル(ハート)花壇にはビオラとジュリアンが。そのほとんどが十一月から十二月まで開花している(同センター職員と一緒)ことでした。

港区花みどり友の会がサポート

これらの作業のサポート役は「種から育てる地域の花づくり」を進める区民グループ「港区花みどり友の会」。この日は会員十人のうち男女七人が参加。「苗を埋める穴はまっすぐ掘らなあと、二・三センチの間隔は葉っぱと葉っぱが触れ合う程度に」「スマイルの目がちよつと変だね、どついたらいい? そつ、少し寄せたら良くなったねえ」などと助言を送っていました。

❀ ピースサインと笑顔の花も

やがて四十分ほどで作業は終了。児童らは周辺に散らばった土や枯葉を熊手なごで清掃。同センター職員が「仕上げに」と焦げ茶色の有機堆肥を土の表面に振りかけると、図柄がさらにくっきり。「やった」と歓声が上がリ、班ごとに記念撮影。花壇の周りには本物の花に負けないピースサインと笑顔の花も満開でした。

最後に再び集合。友の会の高田さんが「これらの花は皆さんが卒業されるまで咲いています。そのあとも（思い出は）繋がっていくでしょう。通りがかりに雑草を見つけたら抜いてあげてね」と挨拶すると、児童たちは「ありがとうございます」と脱帽して頭を下げました。



→ どんどん苗を植えて⑤、⑥「花壇の完成だ！⑦」

❀ 「記念になり嬉しい」と参加児童

参加した児童のうち「クローバー」花壇を担当した上田洋十君は「穴の深さを揃えるのが難しかったです。最後に土の表面を均すのは楽しかったです。完成できて、とても達成感があります。花壇づくりをすると聞いた時は、卒業の記念になると思い、とても嬉しかったです」。

一番大きな「田中小」花壇を担当した賀数優香さんは「ポットから苗を抜き出すことや、土を固める強さの加減が難しかったです。完成した時はとても嬉しかったです。とてもいい卒業記念になりました」と話していました。

また、サポート役を担った同センターの沖さゆんや五十嵐さん、同会の高田さんらは「初めての取り組みで大変でしたが、子供たちに喜んでもらえ、ホッとしています。来年以降も継続できたらと考えています」と話していました。

❀ 八月から図柄・花苗など準備

なお、同センターと同会によると、この取り組みは、八月に田中小校長や地域関係者も交えて開いた会合（八幡屋公園活性化検討会議）で提案され、それに基づいて児童が数件の「デザ

← 卒業まで飾られる花壇を前に記念撮影⑧、協力してくれた友の会メンバーに感謝⑨



ン案を提出。その中から花壇化が可能なものを友の会が選択し、子供たちが希望する色や形をできるだけ生かしながら図面を作成。その上で、それらのデザインにふさわしく、しかも冬に咲く花を選択。各図柄の配置も「アイ・ラブ・スマイル」などと一つの流れになるよう工夫。さらに本番二日前には九時から十五時まで、土に白線を入れたり、リュウノヒゲや葉小タンを前もって植えたりの下準備。そうして当初予定の十二月三日を悪天候予報のため延期し、この日を迎えたといつことでした。

地元出演者に声援

「なみいちまつり」賑わいさらに



→地元からの出演で回を重ねることに賑わいを増してきた「なみいちまつり」＝十一月二十九日、波除小学校（写真は少女たちのダンス）

地元出演者による多彩な出し物にやんやの声援。十一月二十九日（日）に波除小学校で開かれた波除・市岡元町地域の文化行事「なみいちまつり」には大勢の地域住民が集い、カラオケなどを楽しみました。波除地域活動協議会（波除地活協）が主催、同地域の地域振興連合会と各種団体が協賛。二回目。

●子供向けゲームや模擬店
プログラムは一部に分かれ、朝十時から正午までは運動場で子供向けゲーム「フリスビー」「じゃんけんチャンピオン」などが催されると共に、珈琲・紅茶・おはぎ・焼きそば・フランクフルトなどの模擬店が出店、午後は四時ごろまで歌や踊りが講堂で演じられました。

●「まちづくり」繋がる地域
このうち午後の部では、開会式で藤本弘・波除地活協会長が三年目を迎えたが、地域の子供から大人まで一緒になって歌や踊りを楽しむことで、安全・安心のまちづくりに役立っている、平力・波除小学校校長がこうして続けることで地域発展に繋がると確信している」と共にこの催しの意義を強調しました。

←開会式で挨拶する藤本会長①と平校長②



●『お岩木山』などカラオケ熱唱

このあと舞台では、各出演者が、事前インタビューに基づき司会者の簡潔なプロフィール紹介を受けてさっそく登場。まずカラオケ大会では、坪地保雄さんが『お岩木山』、丸本里美さんが『ほの字傘』、宮川清茂さんが『カラオケ流し』、行光千津子さんが『釜山港へ帰れ』、藪井清澄さんが『花冷え』、森高木子さんが『炎の川』、竹内未来&工藤彩華さんが『愛唄』、安川桂一さんが『王将』をそれぞれ熱唱しました。

●「手品」など演芸も次々と

休憩時間には、駆け付けた田端尚伸・港区長が激励のあいさつ。続いて演芸部門に入り、波除三郎（本名：大西中朗）さんが「手品」、大杉佳代さんが新舞踊「筏ながし」、カウルヴェヒ

がフラダンス「レイロケラニ」、皆で踊るうかが民謡「豊年ほうねん」の「い節」、リトルエンジェル스가ジャズダンスサウンド・オブ・ミュージック、少女グループがダンス「ノーブランド・ガールズ」をそれぞれ披露しました。

● 地元の漫才コンビに喝采

「このあと、共に地元在住でよしもとクリエイティブ・エージェンシー所属の若手漫才コンビ二組が、前々回、前回に続いて登場しました。

「このうち「けむり」は、なおよやなおよやさん（本名：増田直也、波除保育園→波除小→市岡東中、二十七歳、波除在住）とひろあきさん（本名：村上弘明、田中保育園→由中小→市岡東中、二十八歳、磯路在住）のコンビで、二〇一〇年四月デビュー。

舞台では「今日はオカンやら知り合いがいっぱい来てるね」と地元出身をアピール、会場に「参加せよよ」などと突っ込みながら、学校や地元店での思い出などを笑い沢山に喋ったあと、会場からのリクエストで「坊主が屏風びょうぶ」に上手に坊主の絵を描いた「などの早口言葉を見事に決めて喝采かっさいを浴びました。

続いて登場した「トッピーークレット」は、

「会場を笑いで包んだ地元漫才コンビ二組（右

は「トッピーークレット」、左は「けむり」

①と、大きな盛り上がりを見せた抽選会②



ともしさん（本名：岩井智弘、波除小→市岡東中、二十九歳、市岡元町在住）とまさじさん（本名：山内正治、波除小→市岡東中、二十九歳、波除在住）のコンビで、二〇一〇年十一月デビュー。

舞台では「今日は演芸場やないので」と芸披露を宣言、まさじさんが「ミスしたらギャグやります」と得意のギャグリングに挑戦、最初は失敗して「スケさんカクさん見て「ウモン」とお尻を突き出すギャグで笑いを浴びましたが、最後はボールに携帯電話を交えた高難度ギャグリングを成功させ、喝采を浴びました。

● 大賞に「リトルエンジェルス」

表彰式では「大賞にリトルエンジェルスが選ばれ盛大な拍手を受けると共に、「準優勝」に拝地さんが、「会長賞」に丸本さん、宮川さん、薮井さん、森高さん、皆で踊るうかが、「特別賞」に行光さん、安川さん、大杉さん、カウルヴェヒが、「会長特別賞」に竹内&工藤さんとノーブランドガールズがそれぞれ選出。最後は抽選会で盛り上がりのうちに開きとなりました。

● 「年々よくなってる」と参加者

終了後、三回目の参加という川隅鋭一さん（七二＝市岡元町三丁目町会会長）は「今日は他の催しと重なったが、大勢の参加で良かったです。一部に分けて子供も参加できるようにするなど、年々内容も運営も良くなっています。回を重ねることで地域が少しずつでも賑わっていいですね」と話していました。

また内藤幸子さんなかにしら六十代女性三人「いずれも波除在住」は「歌のつまい拝地さんの応援に來ましたが、ほかにも地元の方が次々出られ、親しみが持てます」「だんだんにぎやかになっていくのが分かります。これからも参加したいです」などと話していました。

本格派のおもちや贈る

ハピネスが子ども・子育てプラザへ



→糸道子代表（中央左）らハピネスグループから玩具を贈られ喜ぶ吉田マネジャー（同右）
 〓十一月二十九日、港区子ども・子育てプラザへ

子供たちに健康的なおもちやを。「ふれあい喫茶」などの活動を通ける港区のボランティアグループ「ハピネスグループ」（糸道子代表）が、港区子ども・子育てプラザ（磯路）におもちやをプレゼントし、その贈呈式が十一月十九日（日）午後、月例の「ふれあい喫茶ハッピー」の中で行なわれました。

◆ プルトップ回収などで購入

おもちゃは、同グループが続けてきたアルミ缶・プルトップ回収で集まったお金で購入した知育玩具「カッパ」^{ういぐなぐ}。幼児から小中高生や大人まで、年齢や発達段階に応じてレベルを上げていける健康的で本格派の積み木です。

受け取った同プラザの吉田政嗣マネジャーは「毎年のご協力、本当に助かっています。大切に大切に使用して頂きます」と感謝を表明。糸道子代表は「小さな力の積み重ねがこんな形で現われ嬉しく思います。来年は手芸品の売上からも贈れたらと考えています」と喜びを語りました。

◆ 「ふれあい喫茶」を中心に

同グループは二〇〇〇年三月、幼児からお年寄りまでを対象にしたボランティアグループ「

「ハピネスグループ」による毎月の「ふれあい喫茶」①では、和太鼓②など色々な出し物が



として発足。毎月最終日曜日の「ふれあい喫茶ハッピー」（会場で飲物と菓子）を中心に活動を重ね、様々な趣味のサークルも結成。そこで作った手芸品をクリスマスや母の日などに無料で区民にプレゼント。現在の会員は八十代〜十代の約五十人で、大半が女性。同プラザには二〇年に木製玩具、一一年にキッチンセット、二一年にブロック、二三年に積木セット、一四年にレゴブロックを寄贈。こうした活動に対し、一一年には港区社会福祉協議会から感謝状が、一一年には市長から表彰状が贈られています。

同グループについての問い合わせは〇六五七三・七五〇〇 糸代表まで。

猫ふやさず共存を

「街ね」資金集めにフリマ



→野良猫を増やさず地域で共存を願う「街ね」活動を支援する人たちが賑わうフリーマーケット。八幡屋での開催もすっかり定着した

「野良猫を増やさず、地域で共存できるよう

一緒に行動しましょう」と呼びかける「街ね」活動が地道に重なられています。十一月三日

(日)には八幡屋商店街で朝から夕方まで、不妊・

去勢手術などの費用を捻出するためのフリー

マーケットを実施、活動への協力を訴えました。

この日はこの地での開催が定着してきたこと

もあって、常連さんに加えて初顔も多数。さら

には「これ良かったら」と物品を提供してくれ

る協力者も現われ、「猫サポーター」の腕章を付

けたスタッフ数人は十時オープン前から大わら

わ。そんな中でも、初めての来場者には「街ね

」について熱心に説明する姿が印象的でした。

●「サポーター」五年目で課題も

こうした活動の背景には「野良猫が増えて困

る」「身勝手な餌やりが多い」「糞や食べ残しで

街が汚れる」などの苦情が絶えないことがあり

ます。そんな事情に対応して大阪市は二〇一〇

年、市民と行政が協力して地域の環境保全と動

物愛護を図るついでに「街ね」制度を、一年後

にはそれを公園に適用した「公園猫サポーター

制度」を創設。研修を受けた市民がサポーターに

なり、①公園の猫に手術をして増えないように

する②一代限りとなった猫への適切な餌やり

で徐々に数を減らす③公園の環境美化に努める

—などの活動が続けてきました。

が、その活動が五年目に入った今、一定の達

成と共に課題も見えてきたのです。その主なもの

が協力者の不足（港区では築港公園以外はサ

ポーター不在、そして手術費の自己負担です。

特に手術費は一件約二万円に対して市の補助は

五千元、しかも件数に限りがあり、一般市民が

これを全面的に賄うのは不可能です。

●求められる公的支援

そんな苦境を市区民レベルで解消しようと取

り組まれているのが、こうした啓発と資金作りの

活動。制度発足の初年度から大保山公園の「公

園ねこサポーター」として活動が続けてきた尾

崎妃努子さん(池島)らが取り組み、同商店街で

は今回で五回を重ねました。

こうした活動が実を結ぶよう、市区民レベル

の努力と共に、①地域理解の浸透へ広報を強め

る②手術費をフルする基金を創設する—など

公的支援の一層の充実が求められます。

三先小が復活V6

区Pバド大会 十六チーム熱闘



→十六チームが練習の成果を発揮し、優勝めざして熱闘を繰り広げた第二十回港区PTA協議会親善バドミントン大会(写真は試合風景)

「スポーツを通じてPTA間の親睦を深めよう」と十二月十二日、港スポーツセンターで「港区PTA親善バドミントン大会」が開かれまして、二十回目。港区教育親和会が後援。

開会式では山本慎一・港区PTA協議会会長が「優勝に向かって正々堂々と」、田端尚伸・港区長が「学校単位の縦糸を今日ば横糸に広げて」、山本高雄・港区教育親和会会長が「力合わせて楽しい一日を」と激励。市岡小の平井智子主将と飯間千穂副主将が「いつも見せる白い歯を今日は見せず、筋肉にムチ打ち、明日のことなど考えず頑張ります」と宣誓。田端区長と山本・教育親和会会長の始球式で熱戦の幕が開きました。

試合では十八チームが予選リーグ(各四チーム総当たり)とその順位に基づく順位決定リーグ(同)を実施。このうち一〜四位決定戦では各予選をいずれも全勝で勝ち上がった四チームが激突。熱闘の末、三先小が三戦全勝で優勝、井天小が二勝一敗で準優勝、田中小が一勝一敗で三位。以下、④池島小⑤市岡東中⑥波除小⑦港南中⑧築港小⑨港中⑩築港中⑪市岡小⑫磯路小⑬市岡小⑭南市岡小⑮八幡屋小⑯港晴小の順。

←開会式に整列した各チーム(上)と、笑顔で宣誓する平井さんと飯間さん(左は山本会長)(下)



三先小は全試合通じて無敗と圧倒的強さを発揮。昨年途切れた栄冠を奪還して復活をアピール。トップの通算優勝回数も六に伸ばしました。

自主運営(役所の物的・実務的支援なし)に入って四年目。きびきびした司会など、各校P間の協力による円滑な運営ぶりが印象的でした。



→始球式でサーブを打ち込む田端尚伸・港区長(上)と山本高雄・港区教育親和会会長(下)

未来につなぐ歌声

区民音楽祭 十二グループ競演



→十二グループが歌声を響かせた港区民音楽祭。写真は全出演グループによる『高校三年生』の大合唱。十一月二十九日、港区民センター

「コーラス発表を通じて歌つ喜びを共有し、グループ間の交流を」と市民協働の手づくり合唱イベント「港区民音楽祭くひまわりコンサート」が十一月二十九日(日)午後、港区民センターで開かれ、区内のコーラスグループが、やさしく、力強い歌声を響かせました。港区民音楽祭実行委員会が主催。財大阪市コミュニティ協会港区支部協議会が共催。港区青少年指導員協議会・レディス卓球・手話サークルなどが協力。八回目。今年のテーマは「未来につなぐ歌声」。

♪ 童謡・唱歌から「スヘルまで

オープニングは恒例となった全出演グループによる壮大な『ひまわりの風』の大合唱。このあと「ララカント」ポコポコ「ポコポコ」(市岡小生涯学習ルーム&同校PTA)コーラス「シカナリー」(港区コミュニティ合唱団)「スイートピー」(田中小生涯学習ルーム)「ナチュラル」(八幡屋小生涯学習ルーム)「弁天サマーズ」(弁天小生涯学習ルーム)「ワールド合唱団」の七つのコーラスグループが『妻を歌つ』ぐんじやう『群青』『信じる』『麦の唄』『少年時代』『月の砂漠』『島唄』

など童謡・唱歌・民謡・映画主題歌・フォークソング・歌謡曲の数々を、「クワイヤ552@human note」(バイサイドクワイヤ@human note)の「ゴスヘルグループ」は『絆』きずな『笑顔があれば』などの「ゴスヘルを、それぞれ披露しました。

また前半には「コムシヤン」によるオカリナ演奏や、ゲストのアンサンブルグリーンズによるバイオリン・ピアノ・チェロ・フルートの合奏が、中盤には来場者も含めた『高校三年生』『見上げてらん夜の星を』の大合唱が、後半には林賢りんけんさんによるチューバ(大型の低音金管楽器)演奏が、それぞれ挟まれ、最後は再び会場全体で手話を交えた『ふるさと』を大合唱、感動と一体感の裡に幕を閉じました。

♪ 区民の声をきっかけに

なお、この催しは「発表の場がほしい」「コーラスの楽しさを存分に味わいたい」という区民の声をきっかけに区内の合唱グループが実行委員会を結成して二〇〇八年にスタート。以後毎年、区民団体の協力・援助も得て企画段階から準備作業を進め、チラシやポスターも自分たちでデザイン・作成しています。

高水準の熱唱に沸く

区老連カラオケ、辻さんV



→高水準歌唱に沸いた区老連カラオケ大会(写真)
真は『北の漁場』を熱唱する井天千寿クラブ。
渡部武志さん) 十二月五日港区民センター

高齢者ハワーが高水準歌唱となってビッグ・バン。十二月五日、港区民センターで行なわれた港区老人クラブ連合会主催の年末恒例「カラオケ大会」には区内の各老人クラブから精鋭が出場。口を鍛えた喉を競い合い、屋外の寒気を飛ばすような熱気で会場を包みました。

♪「選曲」「歌唱力」で審査

大会は同日朝の「第四回港区老人クラブ大会」二十一頁に記事の第一部として正午開会。小西昭人副会長(厚生文化部長)の総会司会のもと、審査委員五氏(坂崎岩太郎・井天寿楽会長、浅野利夫・港晴さくらクラブ会長、吉野勇・南朝潮コーポあじさいクラブ会長、大黒長治・第一田中長寿会会長、仁木功・池島楠友寿会会長)と音響などの裏方が紹介され、進行役を二氏(大森慶孝・第一田中長寿会会長と吉岡英雄・井天千寿クラブ会長)にバトンタッチ。審査方法(選曲「歌唱力」を基準に各審査委員が二十点満点で採点し、総合点で順位を決める)が説明され、熱戦がスタートしました。

♪優勝への執念みせた各クラブ

事情で昨年舞台に立てなかった満田節子さん

「しっとり語りかけるような『風恋歌』で女の哀しみを表現した満田節子さん(左)と、丁寧な歌唱で『酒のやど』の切なくもほの温かな世界を表現した土井きくえさん(右)」



(南朝潮コーポあじさいクラブ)の『風恋歌』(香西かおり)を皮切りに、『酒のやど』(香西かおり)の土井きくえさん若竹会から『浪曲太鼓』(北島三郎)の藤田尚さん(みなと元朗会)まで、エントリーの三十五人が次々とマイクを握りました。いずれ劣らぬ歌唱力の高さと共に、歌い手の背後で応援の踊りなどを繰り広げる各クラブの優勝への執念、音響機器の不具合や進行の不手際にも笑いやギャグで応じる会場の「老人力」、またトイレ休憩を二回はさむなど高齢者への配慮ある進行ぶりも印象的でした。

♪藤かほりさんがプロの歌唱

締めくくりに、前年度優勝の前川輝子さん（築老クラブ）が、亡夫への想いを込めた『番坂情話』（中村美津子）を披露して「さすがやなあ」と会場を唸らせると共に、特別出演の地元歌手・藤かほりさんが『関東春雨傘』（美空ひばり）『男の夢一代』（持ち歌『知覧の母・ホタル』）『歌川三子』でプロの歌唱を披露。アンコールの『河内おとこ節』（中村美津子）は会場の踊りも加わって大変な盛り上がりとなりました。

♪ 『お岩木山』の辻さん優勝

審査の結果、優勝は『お岩木山』（三山ひろし）を歌った辻喜作さん（弁天寿楽会）が獲得。準優



→野性味のある声でじっくり感情こめて『みちづれ』を歌い込んだ大川まさるさん①と、詩の意味をかみしめつつ清涼感あふれる『ニコライの鐘』を聴かせた宮川清茂さん②

勝は『川』（北島三郎）の平井博さん（APM清クラブ）、三位には『父娘坂』（清水まり子）の玉川エミ子さん第、田中長寿会が入りました。また、歌の背後での応援ぶりなどをクラブ単位で競つコンクール（会長表彰）では、『岸壁の母』（葉山たけ子）を歌った十屋久子さんら八幡屋楽友会に、敢闘賞が、『雪の細道』（水田竜子）を歌った岡島恵美子さんら弁天寿クラブに『がんばったで賞』が、『命くれない』（瀬川瑛子）を歌った松下昭子さんら市岡元町長生会に

「アイディア賞」が、『浪曲太鼓』（北島三郎）を歌った藤田尚さんらみなと元朗会に「楽しませてくれたで賞」が、それぞれ贈られました。

♪ 「出会いを大切に」と会長

閉会式では山口薫副会長（総務部長）が審査結果を発表。原田壽会長が各受賞者に表彰状やトロフィー、記念品を授与したあと、「今夏、柏原市老連とのコラボで好評だった港区老連まつりを来夏も企画している。『港区から東北へ』『出会いを大切に』を『言葉』に、来年もお互い元気で頑張りましょう」と会場に呼びかけ、二〇二五年最後の大行事を締めくくりました。

「じっくり堂々とした歌唱で温かみのある『橋場の渡し』を聴かせた手島一弘さん①と、カ感激れるダンディなマイクさばきで『おまえに』の温かな世界を表現した仲島英暁さん②



なお、優勝の辻さんと敢闘賞の十屋さんには、二〇一七年の大阪市老人クラブ連合会主催カラオケ大会への出場資格が与えられました。

♪ 「夢かと思つた」と辻さん

大会終了後、優勝の辻さんに感想を訊きました。辻さんは昭和八（一九三三）年三月生まれの八十二歳。元国鉄マンで、最初の赴任先、舞鶴駅で「お前は声がええから」と構内アナウンスを任されたほど、声の良さには若い時から定評があり、二、三十年前にはサンケイホールでの民謡大会に「一回出場、十五年ほど前には港区老人福祉センターの大会で優勝した」とも。現在は

同センターの歌謡クラブでカラオケを楽しんでいます。優勝曲『お岩木』は同クラブで十一月に練習したばかり。デビュー七年目の三山ひろし（クラウン）が山のように素朴でまっすぐな男の生き様を爽やかに歌い上げ、ヒット中ですが、辻さんはその「♪山よ～」という出だしに「勢いがあるから」と惚れ込み、一カ月前、家やカラオケ店でも練習を重ねたそうです。

「弁天寿楽会を代表して出場するので、まずは会の恥にならんよう、とちゃん（歌詞を間違えない）ことを心がけ、その上で、歌詞をはっきり発音することや、（歌の題材である）お岩木山の



→『おんな町』の熱くしっとりした情の世界を艶やかな声で表現した古井美恵子さん①と、『知覧の母・ホテル』などの圧倒的な歌唱で、口の技量をアピールした藤かほりさん②

熱戦を制して原田会長（左から三人目）から表彰を受けた入賞者。左から優勝・辻喜作さん、準優勝・平井博さん、（一人おいて）三位・玉川エミ子さん、敢闘賞・土屋久子さん、がんばったで賞・岡島恵美子さん、アイデア賞・松下昭子さん、楽しませてくれたで賞・藤田尚さん

風景を思い浮かべて情感を込めると、単調にならんよう波メリハリをつけることを意識しました。他の人もみな上手だったので、優勝と聴いたときは夢かと思いました。この喜びを、応援してくれた弁天寿楽会や歌謡クラブの仲間にもまず伝えたいです」と話していました。

♪ 「下位は紙一重」と審査員

辻さんの歌唱について審査委員の浅野利夫さんは「審査では①客席への会釈などマナーがきっちりしているか②発音が最初から最後まで聴き取りやすいか③音程がしっかり守られているかを主な基準とし、加えて④マイクの使い方（近づけすぎると高音は割れ、離し過ぎると低音は聴き取れない）⑤呼吸休む所を強調する所のメリハリ」③情感・歌詞の正しい理解——なども



ポイントになりました。これらの点で上位三人は非常に水準が高く、差は紙一重。中でも辻さんはほぼ満点でしたね」と話していました。

ライブガイド

● **八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん** きりたかつじ

日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。港中学校出身▽一月三十一日(日)十八時から江坂ミューズ(吹田市豊津町二〇・一五ライブプラザブーミン五階)地下鉄「江坂」駅、**863187・0103**でカーニルの「新春メタ絵巻」出演▽二月一日(月)二日(火)十九時から神戸チキンジョージ(神戸市中央区下山手通二・一七・二地下一階、JR・阪急・阪神「三宮」駅、**80761・3311・0146**で、二月四日(木)十九時から奈良ネバーランド(奈良市法華寺町二二・一、近鉄奈良線「新大宮」駅、**80741・2161・4111**)で、ザ・クロマニソンの「ジャングル9」出演。



↑桐田勝治さん(上)とペドロロさん(下)

● **三先のフォーク歌手、ペドロロ上村さん** かみむらじ 毎月第一・三木曜 干時サ・セラ(中央区西心斎橋、**86221・6437**)▽毎月第二火曜 二十時半

ロージー(中央区西心斎橋、**86231・3199**)九▽毎月第三火曜 干時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町、**80901・5811・7025**)。

● **市国元町の音楽ユニット「花☆キャブ」** ポッ

プスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルゲリータとトマトパスタ』あなたらしくあたらしく『好評』Eメール kkaohanak@yahoo.co.jp▽HPは花☆キャブで検索(港新聞HPからリンクも)。



↑演奏する花☆キャラのニッシーさんとカオリンさん

演劇ガイド

● **あながいおまる一座『雨月物語』** 波除のフ

リースハウス石炭倉庫を拠点に庶民の優しさや逞しき、社会的メッセージを込めた演劇を世に問いつけるあながいおまる一座のスタジオ公演。好評の朗読シリーズ『怪談を食す』の

第四回。上田秋成の大作『雨月物語』から七篇。①一月三十日(土)十四時から『巻之一 白

峯』『巻之二 浅茅が宿』『②同日十五時二十分

から『巻之三 菊花の約』『巻之四 夢應の鯉魚』

③二月二十一日(日)十三時から『巻之五 佛法

僧 古備津の釜』『④同日十四時四十分から『巻

之六 蛇性の姪』『⑤同日十八時から『巻之七 青

頭巾 貧福論』。料金は①～⑤各 枠五百円、

三十日全日 千八百円(前売 千五百円)、三十

一日全日四百円(前売 三千八百円)。詳細・

申込は会場の石炭倉庫(波除八・五・一八、JR

弁天町から国道四三号を北へ直進、安治川堤防

突当り右すべ。**86581・0664**、チケッ

ト専用フリーダイヤル011-3334-1111

九、Eメール theater@sekittan

souko.coo.jpへ。《読者プレゼントあり》

みなと

人生

劇

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづける「正地」ドラマ。第八弾は、田中住の九十代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こううんばし そら

幸運橋の空 (十四)

(前巻まで) デイサービスに通う久美子は回想録を残すことにした。―大正十年、六人兄弟姉妹の長女として浪速区に生まれた久美子は博打に目がない父に苦労させられながら奉公の連続で家族を助けた。引越先の港区でも三年間の子守奉公。十二歳でようやく家族と合流。母と営む海産物店で一家を支えた。大戦下の昭和十七年暮れ、船大工の次男・大東正義と結婚。新婚気分も束の間、夫は召集され南万へ。夫からの便りは二十年二月で途絶え、三月十二日の大阪空襲では港区の東半分が焼き払われた―

その後もB29はほとんど毎日、数は少なかったけれども決まったように朝晩二回、やって来た。そのついで久美子らは警報で家を飛び出て防空壕へ逃れるという生活をくり返した。一つの防空壕には隣組の五十人ほどが入れた。地上二、三強の高さの蔽いといふほどに掘り下げた地面の間の楕円形の空間に、久美子らは体を屈め、身を寄せ合って「警報解除」を待った。

● 六月一日の朝にも大阪大空襲

三月の大空襲から二カ月半後の六月一日朝、今度は焼け残っていた大阪港沿岸部にも猛爆が加えられた。

八時ごろ「空襲や〜!」という声が聴こえた時、久美子は田中元町二丁目の実家で洗濯をしていた。隣組の班長の導きで近所の人々と一緒に防空壕に駆け付けた。「早よ防空壕に入らな!」。皆必死だった。壕はすぐ満員になった。

「ドーン」「ドーン」。壕の中には爆音と振動が絶え間なく伝わり、久美子らは息を潜めて身を縮めていた。音がやや静まったのを見計らって「今や!」と誰かが壕の蓋を開けた。久美子も思わず外を覗いた。「つわ〜、これが日本が

いな〜。それは今までに見たこともない光景だった。明るいはずの外はまるで日暮れのように暗く、辺り一帯の家といふ家は炎を吹き上げていた。何かを取りに家に戻ろうとしたのか、布団を被って外を走っていた女性が、炎の起こす風でびゅ〜と吹き飛ばされるのが見えた。

● 甚大な犠牲の中での幸運

十一時ごろ、ようやく壕から出た。性別さえ分からない黒焦げの死体がごろごろ横たわっていた。背中赤ん坊が死んでいるのも気が付かず、何かに憑かれたように必死で布団を転がし続けている女性の姿も目にした。

家族と離れ、別世界のような薄暗い焼け跡を茫然と歩く久美子に、誰かが声をかけた。「久美ちゃん、こんなところにおったらあかん、まだ危ないから!」。久美子の母が営む下宿屋に入居していた男性だった。彼は素早く久美子を負い、安全と思われる場所まで運んでくれた。

この空襲でB29四百七十機の大編隊が落とされた焼夷弾は、石田神楽町、田中元町、八幡屋三先・築港など港区の西半分を焼き尽くし、「火焰の上昇は七千々に及んだ」(警察当局)と言わ

れた。港区の犠牲者は十六百人を超えた。それを考えると、久美子の身内は、住居は失ったものの誰一人死なず、怪我を負った者さえいなかったのは、幸運といか言いようがなかった。

●母の里・宇和島へ疎開

この二回目の大空襲で焼け出された久美子たちは疎開することになった。が、罹災証明をもらわないと疎開先で配給を受けることができないので、母と久美子と次弟の捨五郎はそれまで三日間、防空壕の中で寝泊りした。父は末妹の照子と末弟の昭九郎を連れて二足先に母の里へ疎開した。

一方、やはり家を焼失してしまった義父母は、義父・保太郎の里・愛媛県上灘（松山市の西義父の兄がいた）へ向かった。このため久美子と義父母とは、戦後しばらくまで別々に暮らすことになった。空襲のあと雨がざあざあ降ったが、雨がやんで見に行った時には、もう義父母の姿はなかった。

汽車を十回も乗り継ぎ、ようやくの思いで辿り着いた母の里・小池は、宇和島の町から幾つもの山や峠を越えた所にある小さな村だった。

父ら三人はそこで世話になっていた。久美子ら三人もそこへ合流できるはずだったが、人数的に無理があるようだった。そこで母と久美子は捨五郎を小池に預け、宇和島の町に家を借りて住むことにした。

幸い母の一番下の妹・鶴江が宇和島市街へ嫁いでいて、トラックの運転手をしている夫と二人暮らしだったが、徴用に駆り出されて夫が忙しく、家を空けることが多かったので、「寂しいから近所へ来てくれ」とよく言っていた。だから、その意味でも、久美子と母が宇和島に行くことは都合よかったのだ。近くには銭湯もあり、久美子と母はそこでしばらく暮らすことになった。

●地方都市にも片田舎にも空襲が

しかし、こんな四国の地方都市にまでアメリカの飛行機は襲ってきた。久美子らは空襲となると防空頭巾とモンパ姿に横袋を提げ、近くの龍光院という大きなお寺の長い階段を駆け上がった。上がった所に大きな墓があり、そこを通り抜けて大きな木の下へ逃げた。

そんなとく、市街地はやはり危険だといっ

ことになり、久美子らは結局、父たちのいる小池へ合流した。父、母、久美子、捨五郎、上の妹・富子、照子、昭九郎の七人が一つ屋根に暮らしことになった。その母の実家は農家だったが、昔から養蚕業も営んでいて、大きな家の一階を各六畳ぐらいの六つの部屋に仕切り、そこで蚕を飼っていた。一階の大きな三部屋で久美子らは暮らした。

が、そんな片田舎にも米軍戦闘機グラマンは容赦なかった。父が川に小さな船を浮かべて魚を捕っているところを狙われた。父は川へ飛び込み、船の下へ隠れて難を逃れた。久美子が木の枝を背負って山道を下っていると、サーッと降下してくる機影が目に入り、慌てて地面に伏せた。一階の窓めがけて機銃弾が撃ち込まれた家もあった。家の中より安全と思ったのか、村人たちは夜になると海辺のだしじゃこ干し場などへ布団を持ち込んで寝たりしていた。

とにかく日本中で安全な所はないようにさえ思われたが、それでも久美子ら一家も村人たちも、神国日本の最後の勝利を信じてひたすら耐え続けた。

(つづく)

平和のため

戦争体験

語り継ごう

もり しげあき

森 茂明さん(九〇) 八幡屋在住 ③



前まで 大正十四年、八幡屋に生まれた私は
軍国少年として育ち、養成所での訓練を経て昭
和十九年三月、航空資格を取得。ジャワ、北朝
鮮を転戦。敗戦に衝撃を受けたが、命令に背き、
部隊で内地帰還を敢行、島根県に不時着した。

戦後は平和の中で本屋営む

愛国心を心豊かな社会へ

危険な胸体着陸に成功し、皆が砂浜へ飛び出すと、辺りはまだ夜明け前の闇に覆われていました。無事を喜ひ合いながら、「さてこれからどうするか」と思案している所へ現れたのが、この付近の住人でした。無理もありません。戦争が終わったとはいえ、それまで米軍機の空襲に毎晩のように脅かされていたので、未明の爆音に「またか」と飛び出し、米兵を捕まえてやるつもりでも思ったのでしよう。固い表情で私たちを取り囲んだのです。数十人はいたようでした。気づいた私たちは、慌てて叫びました。「アメリカと違つぞー」「日本人やぞー」と。

◆それぞれの故郷へ

そんな想定外の事件もへり抜けて、ようやく私たちは故国の土を踏みしめることができました。住民たちによると、不時着したのは島根県江津市の海べりでした。そこから十一人はそれぞれの故郷などを目指して別々の道を進る

ことになりました。

「元寇だぞ」。同じ釜の飯を食い、生死を共にした仲間との別れに名残りは尽きませんでした。が、それにも増して、懐かしい家族の元へ帰れる喜びが一人一人の胸に溢れ、その日の内に全員がこの地を離れたのは言うまでもありません。

◆徳島県で戦後生活

私は、生まれ育った大阪市港区が空襲で壊滅したと聞いていたので、祖父母の里・徳島をめざしました。この時期、兵隊には無賃乗車が認められていたので、私は汽車を次々と乗り継ぎながら、中国山地を岡山へ抜け、連絡船で香川県へ渡り、さらに四国の東海岸を走って、徳島県の南端、海部郡阿部村に着きました。その間、どのくらいの日数を要したのか、よく覚えていませんが、一週間もかからなかったと思います。

阿部村には姉と妹二人が空襲を避けて疎開し、祖父母の面倒を見ていました。母は大阪空襲に遭いましたが、生き延び、間もなくこの地へ来るというのでした。姉たちは私の帰還に「こんなに早く、しかも五体満足で帰れるなんて…」と涙を流して喜んでくれました。

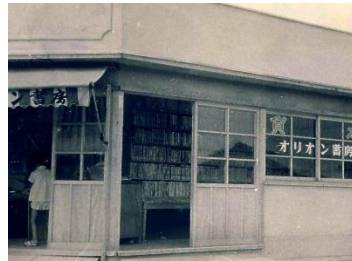
こうして再びの家族生活が、この四国の片田舎で平和のうちに始まったのです。ただ、その中に、戦病死した長兄のいないことが、この幸福に影を落としていました。

私は村の漁業協同組合に職を得、一家を支えました。昭和二十一年（一九四八年）には徳島生まれの女性、明子と結婚。同二十二年にはこの地で長男が、同二十五年には引越先の徳島市内で次男・直樹が、さらに生地に近い大阪市港区八幡屋二丁目（今の港近隣センター辺り）へ移った。同二十八年には長女が生まれ、三人の子持ちになりました。

◆八幡屋で本屋を開業

二十代後半になった私はこの八幡屋二丁目、住居を兼ねた平屋のバラックを店舗にして、妻の助けも得ながら貸本屋「オリオン書房」を始めました。一年半ほど続けた頃、知り合いの本屋の主人が養鶏業を始めるといって、たくさん本を譲ってもらうことができ、それを元手に本屋を開業しました。のちに、すぐ近く（八幡屋二丁目）に南朝潮コーポが建設され、そこへ店舗と住居を移し、やはりこの中には次男・

←戦後は平和の中で本屋「オリオン書房」を営み、世間並みの家庭を築いた。上は初期の店舗（昭和二十九年頃）、下は一家団欒（昭和三十年頃）



直樹が店主を継ぎ、現在に至っています。

因みに長男は市岡高校から名古屋大学に進み、会社勤めを経て東淀川区にエレクトロニクス関係の会社を設立。長女は奈良へ嫁ぎました。現在、孫は八人。平成二十二年（二〇一〇年）には、苦案を共にした妻が闘病の末に八十二歳で他界しましたが、その後も子や孫に支えられながら、店番にも立ち続け、何とか人並みの老後を過ごすことができています。

◆愛国心を平和のためにこそ

九十年の人生を振り返って強く思い返されるのは、やはり私の青春とも重なる、あの戦争の

時代です。昭和五十一年（一九七五年）、我々が青春をかけて学んだ京都航空機乗員養成所の跡地に皆で記念碑を建立し、大空に散った仲間の霊を慰めることで、戦後生活にひと区切りついたように感じたものでしたが、その時にも振り返ったように、当時は国のために自分の命さえ犠牲にすることを、誰も疑問に思いませんでした。しかし戦後はそれを間違ったこととされ、我々戦中世代は随分と複雑な思いを抱かせられてきたのですが、いま改めて思つのは、あの「国のために自分を犠牲にする」という考え方は決して間違ったものではなく、ただそれが戦争へ結び付けられたところに日本の不幸があったのではないかと、いつかです。

思えば、戦病死した長兄を思い、あの戦争で犠牲になった多くの人々が本当に望んでいたのは、戦争の上に築かれる繁栄ではなく、平和の上に築かれる心豊かな社会だったのではないのでしょうか。そのためにこそ、私たちの愛国心が、こうした戦争体験語り継ぎなどを通じて次世代へ受け継がれ、これからの平和な国づくりに生かされることを心から願っています。（おわり）

はつらつ 一年の成果

老人センターで 教室合同発表会



→ 一年間の学びや練習の成果を発表し合った
「教室合同発表会」11月9日、港区老人福祉センター（写真は会場一体での「歌体操」）

「一年間の学びや練習の成果をみんなで楽し
ましよう」と11月9日、港区老人福祉セン
ター（文庫、宇津原正章館長）の各サークル・
教室による年末恒例の「教室合同発表会」が同
センター主催で行なわれました。朝十時から午
後四時ごろまで、民謡や民舞、ダンスや詩吟、
歌謡曲や歌体操などが次々と登場、年末の同セ
ンター大広間は熱気に包まれました。

発表会は三部に分けて行なわれ、山本マサ子
さん（俳句同好会）、川勝允恵さん（生花教室）、
横田明子さん（フットウェアアレンジメントサーク
ル）が各部の司会を担当。六グループ・六十三組
が自慢の出し物を披露しました。

◆ しつとり、情感豊かに「民謡教室」

このうち「民謡教室」は全員や個人で『広島
木遣り音頭』『江差馬子唄』『新相馬節』『姉子も
さ』『秋田節』『長崎はらばら節』『鹿児島小原節』
『市川文殊』『秋田おぼこ』『米節』『津軽願人節』
『隠岐祝い音頭』など十五曲を発表。

この中で田浦眞智子さんは、「大漁唄い込
み」としても知られる宮城県民謡『斉太郎節』
を、口を大きく開ける基本に忠実な発声で、丁

「美しい高音を生かしてしつとりと『新さんさ
時雨』を唄い上げた民謡教室 玉川エミ子さん
①と、透明感と温かみのある声で『夫婦春秋』
を披露した歌謡クラブ・田村徳孝さん②



寧に伸びやかに唄い上げました。

また玉川エミ子さんは、雨の夜に一人待つ寂
しさを語る宮城県民謡『新さんさ時雨』を、美
しい高音の発声を生かして、しつとりと情感豊
かに唄い上げました。

また小田典子さんは、お国自慢を朗らかに綴
った山形県民謡『花笠音頭』を、バックの元気
な相の手を得て、華やかに伸び伸びと唄い上げ
ました。

◆ 温かく、じつじつと「歌謡クラブ」

また「歌謡クラブ」は個人や全員で『高山の
女』『潮騒』『高尾山』『絆酒』『お岩木山』『祇園

「のおんな」博多時雨』『みかんの故郷』『長良川
 艶歌』『遠い空だよ故郷は』『壱坂情話』『津軽
 慕情』『越佐海峡』愛情話』など十五曲を発表。

「」の中で田村徳孝さんは、苦楽を共にしたお
 じの人生を感慨深く振り返る『夫婦春秋』
 (村田英雄・歌を、身振りも交え、透明感とあ
 たたかみのある声でじつくり丁寧に歌い込み
 ました。

◆ 朗々と、肚の底から「詩吟教室」

また「詩吟同好会」は全責や個人で『佳實好
 主』『花笠音頭』など四詩を発表。



→元氣な合いの手を得て華やかに伸び伸びと
 『花笠音頭』を唄い上げる民謡教室・小田典子
 さん(上)と、手拭いさばきも鮮やかに『くるく
 る節』を踊る梶五月子さんから民舞サークル(下)

「の中で藤原勉さんは、富士山の神性を格
 調高く賛美した『富士山』(石川丈山・作を、
 詩の一字一句を噛み締めるように、じつくり
 朗々と吟じました。

また勝部泰臣さんは、名槍を得るため大酒を
 飲み干す豪快な心意を詠った『名槍日本書』
 (松口月城・作を、その槍を眼前に見るかのよ
 うな姿勢と肚の底からの発声で吟じました。

◆ リズミカルに、潑刺と「民舞サークル」

また「民舞サークル」は全責やグループや個
 人で『釣川音頭』『にっぽん花咲か音頭』『千越
 大漁祝い唄』『北海道万節』『隠岐しげさ節(鍋
 のふた踊り)』『道頓堀行進曲』『夫婦坂』『豊年
 こいこい節』『樺つき音頭』『東浪見喜句』『越中
 おわら節』など十二曲を発表。

「の中で増井順子さんは、商売繁盛や
 五穀豊穰を朗らかに願う『七福神音頭』を、
 リズム感も豊かに、明るく潑刺とした身振り手
 振りで披露しました。

また梶五月子さんは、紙漉き唄を源流とす
 る若手県民謡『くるくる節』を、手拭いさばき
 も鮮やかに、楽しい表情で、リズミカルな動

「軽やかなステップで『パイナップルプリンセ
 ス』を舞うダンス倶楽部の山林宏・辻村緑・ペ
 ー」と、民謡などの三味線伴奏を務めた(左か
 ら)藤本春菊師匠と土生美代子さん(下)



きで披露しました。

◆ 楽しげに、軽やかに「ダンス倶楽部」

また「ダンス倶楽部」は全責やペアで『南京
 豆売り(サンバ)』『アメイジング・グレイス(ワ
 ルツ)』『奥様の手をどうぞ(タンゴ)』『恋は水色
 (ルンバ)』『アモーレ・モナムール・マイラブ(ワ
 ルツ)』『蛍の光(ワルツ)』『ルイジアナ・ママ(チ
 ャチャチャ)』『北の漁場のマンボ』など九曲を
 発表。

「の中で山林宏・辻村緑・ペーは、ハワイの
 お姫様の可愛い恋心を詠った『パイナップル

プリンススズルバ』を、表情も楽しげに、息の合った軽やかなステップで披露しました。

◆「明るく元気にリード」「健康教室」

また「健康教室」歌体操グループは第一部と第二部のそれぞれ最後に登場。

「この中の第一部では「これまででは見えていただけでしたが、今からは一緒に体を動かしましょう」と会場に呼びかけ、手の平を開いたり閉じたりする準備体操のあと懐かしい『寒い朝』『吉永小百合・歌のメロディ』に合わせて、腕を伸ばしたり体を揺らしたりする歌体操を、明るく元気な掛け声でリードしました。

◆「居ながら旅できる」と民謡教室の女性

休憩時間や終了後、出演者に話を訊きました。このうち「民謡教室」の生徒として『斉太郎節』を唄った田浦眞智子さん(七〇)＝市岡在住＝は「もともと声を出すのが好きで、健康にもいいからと、半年前に入会しました。民謡は日本の色々な地方のことを知ったり、居ながらにして旅ができるのが楽しいです。教室の仲間はいないいい人ばかり。レパートリーは三曲ほど。高音の発声に苦労していますが、スムーズに出

「歌体操『寒い朝』をリードする健康教室歌体操グループ(上)と、一緒に体を動かす参加者(下)



せるよう練習していきたいです。これからも無理せず、長く楽しく続けていきたいと思っています」と話していました。

◆「出会いが魅力」とダンス倶楽部の男性

また「ダンス倶楽部」会員として辻村緑さんとのペアで『ハイナップルプリンス』を披露した山林宏さん(ハム)＝井天在住＝は「倶楽部に入って五年ほどですが、ダンス歴はブームの頃から三十年以上。社交ダンスの魅力はやはり異性との出会いで生まれる胸のときめき。相手のことを良く知れば息を合わせるのもそう難しいことはありません。好きなステップはフルツとタンゴ。これからも心と体の健康のために続け

ていくつもりです」と話していました。

◆「頭も体も元気に」と民舞サークル女性

また「民舞サークル」会員として『千越大漁祝い唄』などを披露した瀬溝桂子さん(七六)＝田中在住＝は「サークルに入って十数年ですが、民舞歴は中断も挟んで三十年ほど。皆で心を合わせて体を動かし、頭も心も体も元気になるのが魅力です。ボケ防止になりますしね(笑)。難しいのは皆の動きをそろえること。民舞を続けることで性格が前向きになり、友だちが増えました。これからも心身の健康のため長く続けていきたいと思っています」と話していました。



より良い 余生のために 自叙伝を!

お話をききとり、冊子
にしてお渡しします。

芸術の世界でそれなりに実績を積み、環境保護など社会貢献もしてきたと自負していましたが、一度これまでを振り返り、今後の跳躍台にしたいと冊子化を依頼しました。他人に聴いてもらうことで新たな発見もあり、それ自体が貴重な体験でした。(60代女性)

400字(原稿用紙1枚)で
千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

みなとカルチャ

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「第七一回定期演奏会」

「透徹した眼でクリストが読み解くブラームスの世界」と題し、かつてベルリン・フィルを支えた名奏者、ヴォルフガング・クリストさんの指揮で贈る充実のオール・ブラームス・プログラム。オーケストラの全てを知り尽くしたマイスターによる感動のステージ。開幕を飾るドラマティックな序曲に続くのはスケール豊かに弦楽器奏を響かせる逸品。その深く美しいアレンジにも注目。メインではブラームスの『由園交響曲』とも称される「第2番」の瑞々しいサ



→指揮を担当するヴォルフガング・クリストさん

ウンドがホールを満たす。演奏曲目は、①ブラ

ームス：悲劇的序曲 作品81 ②ブラームス：弦楽五重奏曲第2番 ト長調 作品111（弦楽合奏版）③ブラームス：交響曲第2番 一長調 作品73

73 二月二日（水）十九時からザ・シンフォニーホール（JR大阪環状線「福島駅」から北へ徒歩約七分）で。S席八千円、A席四千五百円、B席三千円、C席千円、学生席（二十五歳以下）千円。全席指定 消費税込。☎五五七七・二三八一。

● 港図書館

①あかちゃんのおたのしみ会 毎月第一金曜日（二月は五日）十一時～十二時半に絵本コーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。毎週のおたのしみ会より赤ちゃん向け。申込不要②おたのしみ会 毎週水曜日十五時半～十六時に絵本コーナーで。幼児を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアターなど。申込不要③ミニ図書展示「港図書館に寄贈していただいた時代小説文庫本」展 二月二十二日（木）まで開催中。

時代小説は幅広く人気があり、よく利用されている。「寄贈いただいた皆様、どうもありがとうございます」(港図書館職員)④冬のごも会 二月二十日（土）十時半～十一時半に港区民セ

ンター階梅で。港子ども劇場によるパネルシ

アターやフルート演奏など。申込不要⑥かみしばいをたのしもう 二月六日（土）十四時半～十六時に港区民セ

ンター階橋で。紙芝居一座「せん」の風による紙芝居。「楽しいお話を聴きにきて下さい」(港図書館職員)と「せん」の風（座長）⑥図書展示「あなたにこの本を」展 二月三十一日（日）まで開催中 ☎五五七六・二三四六

● 弁天町ORC200生涯学習センター・弁天

シネマ倶楽部『地上最大のショウ』 「心に残る多作映画を低料金で多くの市民にと旧・弁天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第九回、通算第四十二回。



→弁天シネマ倶楽部『地上最大のショウ』から

——世界最大のサーカス団の座長と花形軽業師ホリーは恋人同士だったが、利益向上を図る座長は新しく空中曲芸の名人セバステアんと契約。ホリーは対抗心もき出して危険な技にも挑むが、対抗意識はやがて恋へと変わり——。

アカデミー賞作品賞・原案賞受賞。監督はセシル・B・デミル。出演はベティ・ハットン、コーネル・ウィルド、チャールトン・ハストン他。五一年米、カラー、一五分。一月十八日(土)十時と二十四時から講堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各回先着百名。☎六五七七・一四二〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」 旧・弁天町市民学習センター時



→オーク弁天寄席にレギュラー出演する笑福亭學光さん(上)と旭堂南麟さん(下)

←第二五三回オーク弁天寄席に出演する笑福亭三喬さん(上)と桂吉之輔さん(下)



代から長年親しまれた人気イベントの再開第二十一回、通算第五二回。一月二十七日(水)十時〜二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講師、旭堂南陵門下)をレギュラーに、今回は笑福亭三喬さん(西宮市出身、松鶴一門、松喬の弟)、桂吉之輔さん(大阪市東成区出身、春団治一門、春之輔の弟子)も。先着百十名。当日五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四二〇。

● 市岡寄席 市岡住民が運営する地域寄席の九回目。「みんなで応援・活用 市岡の地域人

材」を謳い文句に市岡在住の落語家・桂福丸さん(桂春団治一門)の落語一席を楽しむ。一月六日(土)十三時から紫雲山西明寺(市岡二一・一四)で。先着八十名。入場無料。菓子付き。太神楽曲芸・和太鼓演奏・振る舞い酒などの新春行事や豪華品が当たる抽選会あり。車イスでも入場可。運営協力金としてのカンパ歓迎。主催は市岡寄席実行委員会(市岡地域活動協議会、市岡連合振興町会、繁栄商店街振興組合など市岡ゆかりの諸団体や個人から成る)。桂福丸さんは灘中・灘高・京大卒。英語落語で米国公演。〇七年、桂福団治に入門。名付け親は故藤本義一氏。天満天神繁昌亭やT.V.ラジオ番組出演。著書に『怒られ力』。☎六五七一・五八二六(西明寺)。



→桂福丸さん(上)と過去の市岡寄席の模様(下)

● **ねじやらしのシャンテ☆カフェ** 懐かしい歌にきいも若きも声を合わせる月例イベント。毎月第四十曜十四時から港近隣センター（八幡屋一・四二〇）で。不定期にゲストを迎え、リクエスト中心に約「時間。新オリジナル歌集を頒布中。参加費千円税込。一月は王三日。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所」（井天四一・一・一・三〇一、☎五五六・六八一八、<http://necoojyarrasi-jimdo.com/>）まで。

● **関西「フィル」でもに歩む云「今年のバレンタインはヴィオラで」**「健康でゆつたりと音楽文化を楽しむる平和な年」を願い、港区を拠点とする関西フィルハーモニー管弦楽団を応援する同会恒例の地域密着「コンサート。昨年入団の先進気鋭ヴィオラ奏者・田代直子さんがエルガー『愛の挨拶』『シューベルト』『菩提樹』『ます』『E・ブロッホ』『ハプライ組曲』『M・ブルッフ』『ロマンス』o.p.85、F・シューベルト『アルペジオーネ・ソナタ』D.821、『川の流れるように』等々を演奏。中村圭介さん（ピアノ）が友情出演。一月十三日（土）十四時から港ルーテル

教会（磯路一・二一・一八）で。定員五十。参加協力費千八百円（中学生以下五百円）。乳幼児不可。要事前予約。問合せ・申込はTEL・FAX六五四・七七五六 足立代表世話人まで。

● **平美 新春のつどいと「風下の村」原画展** 一九八六年のチエルノブイリ原発事故から六年後にベラルーシのチエチエルスクを訪れ、強制退去のち汚染の村に戻って生活する人々に衝撃を受けて多くのスケッチを残した故・貝原浩さん（倉敷市生まれ。東京芸大卒。画家・デザイナー・イラストレーターとして書籍・雑誌の制作舞台美術などに活躍。〇五年に五十七歳で没。



→ 貝原浩さんの原画より『ベラルーシの婆さまたち』（部分）と、風庵に出品する上江洲茂夫さんの作陶過程の作品例④（同氏HPから）

放射能が確実に人や自然を蝕む恐怖を、素朴に生きる人々を描くことで告発した。その原画を鑑賞すると共に、故人の業績や日本の現実を語り合う。会場はガレリア・リバリア（三先一・三二八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐ。一月十三日（土）十四（日）十七時「二階でパートナーだった世良田律さん（せらだつひ）を囲んで」「新春のつどい」（会費 千円、軽食含む）。一月十四（日）一十七日（水）正午～十八時（最終日は十六時）に一階ギャラリーで原画展（入場無料。☎七五〇一・四一八八）。

● **ぎやうりー&かふえ風庵「上江洲茂夫 陶芸・絵画展」** 工業デザイナーから作陶・作画に挑戦し、「飾る楽しさを形に」「自然の美を求めてを」「コンセプトに大正区で陶芸・絵画教室「アトリエウエス」を主宰する上江洲茂夫さんの最新の陶芸作品（信楽粘土・萩粘土などを使用した飾り物・食器など）や絵画作品（水彩・アクリル・墨筆など）による風景画・静物など）を展示。一月十五日（金）～二月二十五日（木）。風庵は南市岡三・二一・一〇（繁栄商店街内）、☎四九八五・五九八一、十時～十八時開館（日曜定休）。

ひとくちPR

(二行)税込二〇〇〇円、写真は別料金相談

● **そろばん学習で子どもが変わる！** 右脳活性
見直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **検索** (夕四一ー三三七三津神社西側 **五五七ー一六八七七**)。

● **放課後・春・夏・冬休みは児童保育へ** 入所見募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三三四(西原)か **五五七ー一六八四三** あおぞら学童。

● **介護のことはお任せ** ①介護や老いの相談
②介護手続き代行③リハビリサービスは送迎付きで入浴・昼食・おやつ・手芸など④訪問介護は買物・掃除・通院など。NPOみなと合同ケアセンター(南市国二・六・二六、**五五八三・四八八〇**)。

● **石炭倉庫のレッスン** **吉津** たかし先生の所作レッスン(毎週木曜十九ー二十一時、志保先生の歌唱レッスン(毎週火曜十九ー二十一時、あながいおまろの朗読教室(毎週水曜十四ー十六時)、河野明夫の三味線を習おう(毎月第一・第三月曜十八時ー十九時半。一回 千円、千円

←石炭倉庫の吉津たかし先生①と志保先生②



ット制千田チケット十一枚綴り、石炭倉庫イベントに共通使用可あり。石炭倉庫(波除ハ・五ー一八、**五五八一・〇六八四**、theater@sekitan-souko.com)。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替へ。シングル掛(敷ふとん二万円)。まぐらやブライダルもお任せ。ふとん館ひらのや(繁栄商店街フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

● **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送、お出かけから普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミント(八幡屋一・四・八、入舟公園前、大阪信金横、十ー十八時営業、日月定休)。
● **新しい作業所で仕事しませんか** 障害者手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。就労支援B型作業所・相談支援事業

所たばつし(夕四一ー一八・一〇、TEL六五七六・〇一〇〇、FAX六五七六・〇一〇二)。

● **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小中高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。月会費八千円(三カ月期限十枚綴りチケット八千円)。入会金二万円を只今半額。練習日は月・水金の十九時半ー二十一時半。港ボクシングジムは三先一・一三・九HPは本紙HPリンク。

● **囲碁クラブ** 毎月第一・四・七曜の午後二ー五時に港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)会議室で。参加費一回五百円。家族的雰囲気。〇九〇・二二九八・八四四三瀬戸。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

● **関西フィル「第七一回定期演奏会」** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **オーク弁天寄席** (みなとカルチャー)招待券をへア一組に。

● **あながいおまろ一座『雨月物語』** (演劇カイド)招待券をへア一組に。